

國學院大學一覽

昭和五年

國學院大學一覽

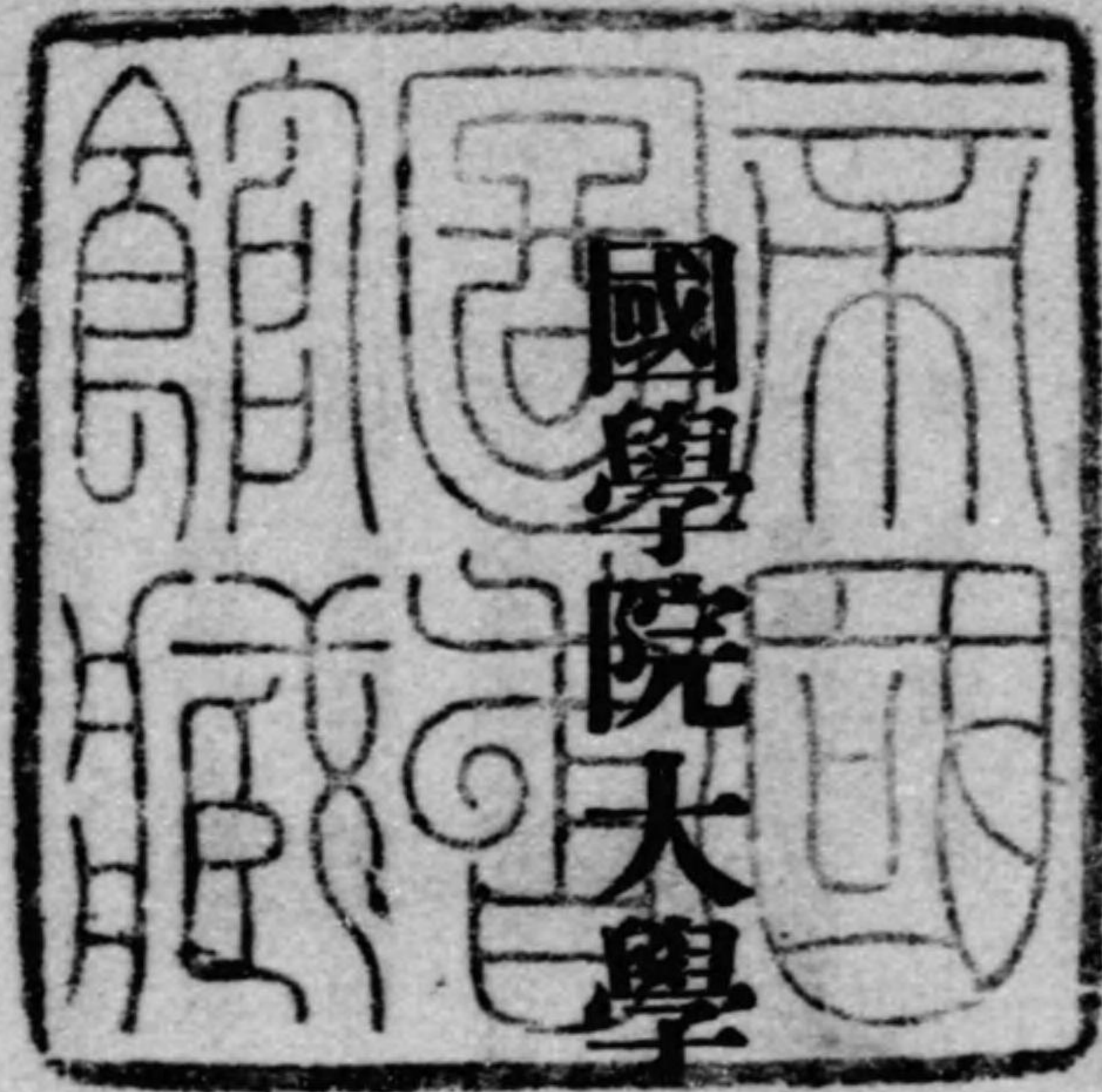
昭和五年

國學院大學一覽

昭和五年

發行所寄贈本

國學院大學一覽
昭和五年



一覽 昭和五年

發行所寄贈本

國學院大學校歌

文學博士 芳賀矢一作

見はるかすもの皆清らなる

一 澁谷の丘に大學立てり

いにしへ今の文明らめて

二 國の基を究むるとこ

外つ國々の長きを採りて

三 我が短きを補ふ世にも

いかで忘れんもとつ教は

いよよ磨かんもとつ心は

學びの巷そのやちまたに

國學院の宣言高く

祖先の道は見よここにあり

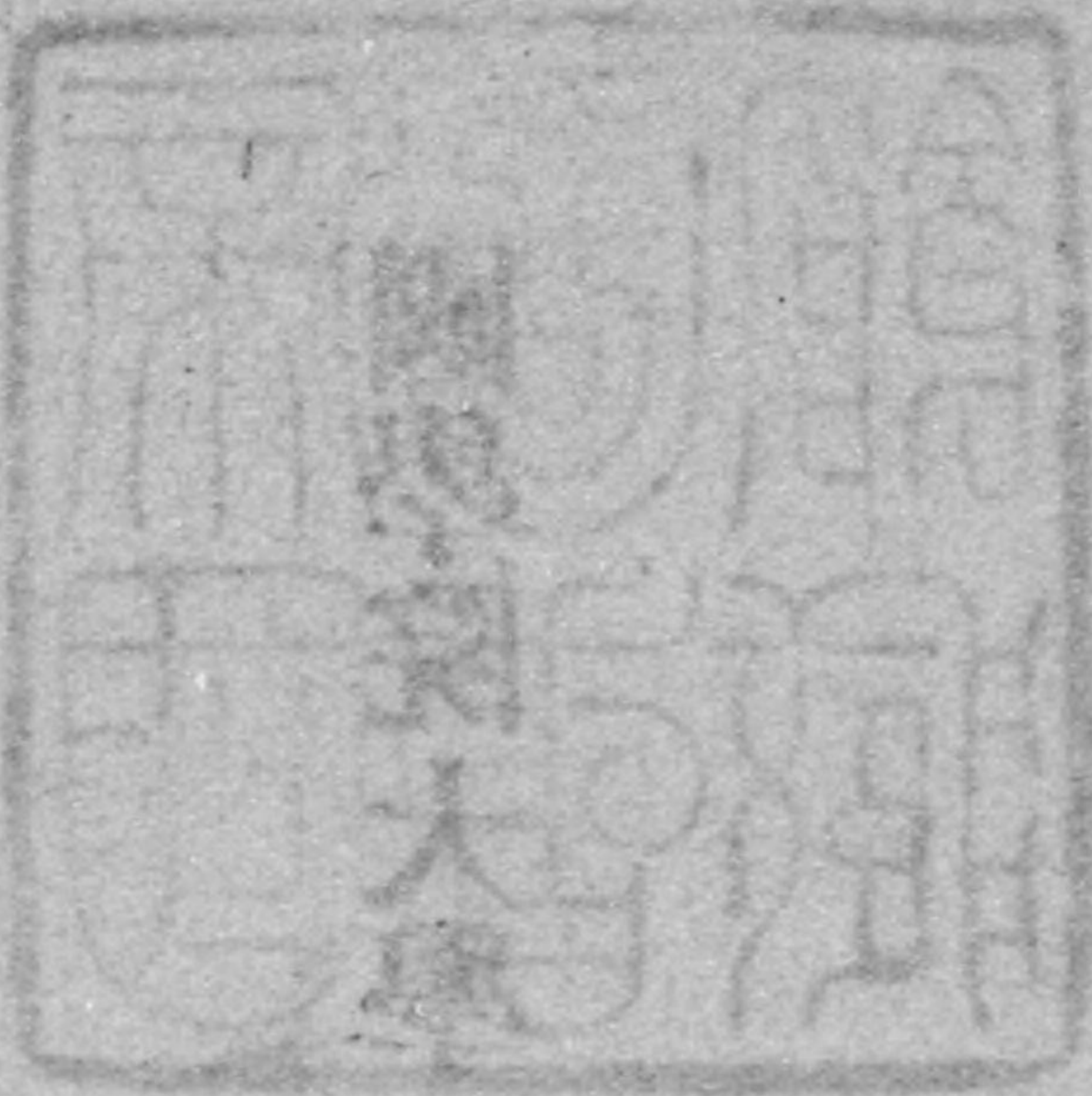
子孫の道は見よここにあり



282-32

目次

一品織仁親王殿下告諭……………一
 大勳位載仁親王殿下令旨……………二
 御沙汰書……………三
 一、國學院設立趣意書……………六
 二、國學院大學沿革概要……………八
 三、皇典講究所寄附行爲……………一八
 四、皇典講究所規則……………二〇
 五、國學院大學規則……………二五
 六、國學院大學商議員會規定……………二九
 七、國學院大學教授會規定……………三〇
 八、國學院大學學位規定……………三一
 九、大學令……………三四



發行所寄附本



一〇、高等學校令	三〇
一一、專門學校令	四一
一二、國學院大學學則	四四
一三、國學院大學學則(舊)	五九
一四、國學院大學附屬神道部規定	七三
一五、國學院大學附屬高等師範部規定	八一
一六、附屬高等師範部規定(舊)	九五
一七、臨時專攻科規定	一〇二
一八、昭和五年度學科配當	一〇五
(イ)學部	一〇五
(ハ)神道部	一一四
(ロ)豫科	一一〇
(ニ)高等師範部	一二〇
一九、學典講究所國學院大學職員	一二七
二〇、學生生徒	一四四
二一、國學院大學附屬圖書館圖書閱覽室規則	一六七

二二、國學院大學研究室規定	一六九
二三、國學院大學々友會々則	一七二
二四、教員無試験檢定ニ關スル法規	一七五
二五、稻荷神社獎學金規定	一八二
二六、全國神職會教育補助金規定	一八五



諭

皇典講究所假建設成ル故ニ良辰ヲ選ヒ本日開費ノ式ヲ行フ職仁總裁ノ任ヲ負ヒ親ク式場ニ臨ミ職員生徒ニ告グ
凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ故ニ國體ヲ講明シテ以テ立國ノ基礎ヲ鞏クシ德性ヲ涵養シテ以テ人生ノ本分ヲ盡スルハ百世易フベカラザル典則ナリ而シテ世或ハ此ニ暗シ是レ本費ノ設立ヲ要スル所以ナリ

今ヨリ後職員生徒此ノ意ヲ體シ夙夜懈ルコト無ク本費ノ隆昌ヲ永遠ニ期セヨ

明治十五年十一月四日

一品勳一等有栖川職仁親王

令 旨

一品位 皇太后 皇太后 皇太后

二

熟々方今ノ世局ヲ察スルニ國トシテ其ノ興隆ヲ是レ圖ラサルハナシ而シテ國運ノ發展國力ノ充實ハ國
民精神ノ緊張ト固有文化ノ發達ニ待ツ所極メテ多シ皇典講究所國學院大學ハ夙ニ國體ノ講明道義ノ發
揚國典ノ攻究竝ニ之ニ緊切ナル教育ヲ施スヲ目的トシテ起リ之カ達成ニ努力スルコト茲ニ年アリ今總
裁ノ任ニ就クニ當リ本所本大學關係諸員ノ遠ク創立ノ趣旨ニ鑑ミ近ク現下ノ國情世界ノ大勢ニ察シ益
々當初ノ精神ヲ發揮シ協贊以テ事業ノ成功ヲ期センコトヲ望ム

昭和四年三月二十三日

皇典講究所總裁大勳位載仁親王

御 沙 汰 書

皇 典 講 究 所

今般其所竝國學院大學規模擴張ノ趣被聞食 思召ヲ以テ第一期分大正八年度以降十ヶ年間々金壹萬
圓宛御補助トシテ下賜候事

大正八年一月二十二日

宮 内 省

皇 典 講 究 所

曩ニ擴張ノ爲メ第一期分ノ賜金有之候處尙其ノ事業ノ狀況ヲ被 聞食特ニ 思召ヲ以テ今回ニ限り昭
和四年以降十ヶ年間々金壹萬圓宛御補助トシテ下賜候事

昭和四年二月九日

皇 太 后 皇 太 后 皇 太 后 宮 内 省

三

國學院設立趣意書

六

人ノ世ニ在ルヤ各其本國ニ緊屬ス故ニ其國ヲ愛重シ其君ニ忠實ナルハ人ノ德義ニ於テ當然至要ナル者トス近時各國人ヲ教フル法必先其國史國文國法ヲ授ケ次ニ百科ノ業ニ從事セシムルヲ常トス是蓋人ヲシテ先其國其君ニ於ケル忠愛ノ良心ヲ萌生シ霑然トシテ赤子ノ慈母ヲ慕フカ如ク親和密合シテ離ルヘカラサル感想アラシメ然ル後始メテ立身治生ノ道開物成務ノ業ニ進マシメントスルニアリ故ニ其効果ハ以テ民タルトキハ善良ノ民タルヘク以テ兵タルトキハ義勇ノ兵タルヘク以テ官吏タルトキハ公平正直ノ官吏タルヘク多士濟々トシテ舉ケテ皆君ニ忠ニ國ヲ愛スル精神ヲ興起セサルハ無キナリ

各國其國體ヲ異ニシ其姓ヲ更ヘ民其統領ヲ立ツル國ニシテ其臣民ヲ教フル方法猶此ノ如シ願ミルニ本邦ハ萬世一君覆幬ノ下ニ無二ノ臣民アリ親和密合シテ離ルヘカラサル情義ヲ存スルハ建國以來終始一貫火ヲ觀ルカ如シ然ルニ晚近内外本末ノ辨大ニ其宜ヲ得ス其弊延イテ教育ニ及ヒ公私學校ノ設甚多シト雖モ國學ヲ先ニスル方法未行ハレサルハ余輩ノ痛嘆ニ堪ヘサルナリ

余輩ハ夙ニ本邦固有ノ學術ヲ研究シ皇室ノ尊嚴ナル所以國體ノ鞏固ナル所以ヲ講明シ人情ノ基ク所風俗ノ由ル所ヲ尋繹シ國民ヲシテ益國家ニ忠愛ナル德義ヲ深厚ナラシメントヲ希ヒ前ニ生徒ヲ養ヒ講

筵ヲ開キ本邦ノ典故文獻ヲ講究スル方法ヲ設ケシモ規模猶未大ナラサル憾アリ今ヤ機運ノ漸熟スルヲ以テ生徒教養ノ法ヲ改正擴張シ茲ニ國學院ヲ設立シテ專國史國文國法ヲ攻究シ我カ國民ノ國家觀念ヲ湧出スル源泉トナシ 皇祖 皇宗ノ謨訓ニ基キ固有ノ倫理綱常ヲ闡明シ且支那泰西ノ道義說ヲ採擇シ以テ之ヲ補充シ以テ國民ノ方向ヲ一ニシ古今一貫君民離ルヘカラサル情義ヲ維持セントス固ヨリ此ヲ以テ宗教若クハ政黨ノ器用トナスニ非サルナリ若夫レ進ミテ人文ノ發達ヲ追ヒ世務ノ必要ニ應スルニ至リテハ海外百科ノ學モ網羅兼修シテ此學ノ進歩擴張ヲ計ル可シ

之ヲ要スルニ本院設立ノ趣意ハ我カ國民ノ國民タル忠愛ノ精神ヲ發揮シ智育ヲシテ國體ニ基ケル德育ト共ニ併進セシメントヲ期スルニ在リ

明治廿三年七月

伯爵 山田顯義

國學院大學沿革

七

國學院大學沿革概要

八

本學ハ初メ國學院ト稱シ、明治二十三年七月創立セラル。皇典講究所ノ一事業トシテ經營スル所ニシテ沿革概要左ノ如シ。

明治十五年我カ國固有ノ學術ヲ研究スル目的ヲ以テ皇典講究所起リ、地ヲ東京市麴町區飯田町五丁目ニトシ、後進養成ノ途ヲ開ク。

同二十三年制ヲ改メテ國學院ノ創立成リ、男爵高崎正風院長ニ就任ス。

同二十六年十二月院長高崎正風辭職シ、國重正文院長トナリ、二十九年六月辭職シ、同月伯爵佐佐木高行院長ニ就任ス。

同三十年九月補助科目中法制漢文ノ二科目ヲ更ニ必修科目ト定ム。

同三十二年七月文部省令第廿五號第一條ノ取扱ヲ受クル事ヲ許可セラル。

同年九月本科ノ學科ヲ改定シテ國史法制科、國語國文科、道義哲學科、外國史料、漢文科、英文科、體操科ノ七科目トシ、國史法制、國語國文二科ニ特別ノ規定ヲ設ケ選科生ト雖モ、英文科ヲ除ク外ハ總テ修業セシムルコトトス。

同三十三年十一月文部省令第二十五條第一條ニヨリ、國語國文科及ヒ歴史科教員免許ノ資格ヲ許可セラル。

同三十四年一月文部大臣ヨリ徵兵令第十三條ニヨル認定ヲ受ク。

同年十一月別科ヲ設置シ、國史法制科、國語漢文科ノ二科ヲ定ム。

同三十五年五月二十六日午前三時出火教員室事務室及ヒ書類器具等烏有ニ歸ス。

同年九月本科ノ學科中國史法制科ニ憲法、神祇式、神社制度ヲ、道義哲學科ニ、神道史ヲ増シ、且ツ

新ニ禮典科ノ一科ヲ設ケ、隨意科トシテ第二、第三年級ニ於テ課スルコトトス。

同三十六年十月研究科ヲ設ケ、國史法制科、國語漢文科、道義科ヲ置キ其ノ年限ヲ二ケ年トシ本院卒業生ニシテ既修ノ學科ニツキ更ニ深く研究ニ從事セントスルモノヲ入學セシム。

同三十七年四月明治三十六年文部省令第十三號公立私立專門學校令ニ據ル件、竝ニ從來ノ學則ヲ變更シ、師範部ノ學科ヲ國語漢文科及ヒ歴史地理科ニ分チ、大學部師範部ノ外ニ專修部ヲ併置ノ認可ヲ得、同年九月ヨリ實施ス。教員免許ノ資格ハ、國語漢文科ニアリテハ國語及漢文、歴史地理科ニアリテハ歴史トス。

同三十八年十月大學部本科卒業生ニ對シ明治三十二年文部省令第二十五號第一條ノ取扱ヲ受クルコト

九

ヲ許可セラル。

同三十九年六月私立國學院大學ト改稱ス。

同四十年九月學則ヲ改正シテ專修部ヲ廢シ、大學、師範各部ニ乙種生及ビ選科生ヲ置キ各科トモ倫理ニ關スル時間ヲ増加スルコトヲ認可セラル。

同四十一年五月校舍本館ノ新築竣工シ移轉ス。

同年五月三十日陸軍騎兵大尉勳一等恒久王殿下ヲ皇典講究所總裁ニ奉戴ス。

同年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十六回卒業式ニ台臨アラセラル。

同四十二年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十七回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年九月各學科ニ主務講師ヲ置ク。

同年十一月十日宮内省ヨリ本大學規模擴張ノ計畫被聞召以、特旨金貳萬圓御下賜アラセラルル旨ノ御沙汰ヲ傳ヘラル。

同四十三年三月二日佐佐木學長皇典講究所副總裁ニ推薦セラル。

同年同月八日皇典講究所顧問樞密顧問官正二位勳一等伯爵芳川顯正學長ニ就任ス。

同年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十八回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年九月廿六日學則ヲ改正シ、師範部歴史地理科ヲ歴史科トシ、本學年度ヨリ實施ノ件認可セラル。

同四十四年二月芳川學長辭任ス。

同年同月皇典講究所顧問正二位勳一等侯爵嶋島直大學長ニ就任ス。

同年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十九回卒業式ニ台臨アラセラル。

大正元年八月二十三日學則ヲ改正シテ大學部ノ修業年限一年ヲ短縮シ師範部歴史科ヲ廢止ノ件認可セラル。

同二年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第廿一回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年八月廿七日學則第二十條改正ノ件認可セラル。

同三年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第二十二回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年十月十四日學則第二章學科課程中改正ノ件認可セラル。

同年十一月十五日道場振武館開館式ヲ行フ。

同四年二月二十六日文部省令第二號第一條ニ依リ文官任用令上ノ認定ヲ受ク。

同年七月七日第二十三回卒業式ヲ學グ皇典講究所總裁恒久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。

同五年七月七日第二十四回卒業式ニ際シ皇典講究所總裁恒久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。

同六年七月七日第二十五回卒業式ニ際シ皇典講究所總裁恒久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。
 同七年四月十五日鍋島學長皇典講究所副總裁ニ推薦セラル。
 同年五月二十三日正二位勳一等伯爵土方久元學長ニ就任ス。
 同年十一月四日學長從一位勳一等伯爵土方久元薨去ス。
 同年十二月二十二日正四位勳三等文學博士芳賀矢一學長ニ就任ス。
 同八年一月二十二日宮内省ヨリ皇典講究所並ニ國學院大學規模擴張ノ趣被聞食 恩旨ヲ以テ第一期分
 大正八年度以降十ヶ年間々々金壹萬圓宛ヲ御下賜アラセラルル旨ノ御沙汰ヲ傳ヘラル。
 同年四月二十三日皇典講究所總裁陸軍少將大勳位恒久王殿下薨去アラセラル。
 同年六月二十日陸軍砲兵少佐大勳位成久王殿下ヲ皇典講究所總裁ニ奉戴ス。
 同年七月十一日學則中大學部豫科ヲ前期後期トシ、新ニ道義科ヲ設置スル件及ビ研究科規定等改正ノ
 件認可セラル。
 同年七月十二日皇典講究所總裁成久王殿下第二十七回卒業式ニ台臨アラセラル。
 同年九月二十日校名中私立ノ二字ヲ削除シ、國學院大學ト改稱ノ件認可セラル。
 同九年四月十五日大學令ニ據ル大學ノ設立ノ件認可セラル。

同年五月十八日師範部國語漢文科ヲ高等師範科ト改稱ノ件認可セラル。
 同年七月七日皇典講究所總裁成久王殿下第二十八回卒業式ニ台臨アラセラル。
 同年七月十日國學院大學々々則制定ノ件認可セラル。
 同年九月二十二日大學部豫科部長、高等師範科部長ノ職ヲ置ク。
 同年十二月十三日舊制度ノ大學部並ニ高等師範科ノ學年ヲ大學令ニヨル學年ト同一ナラシムルタメ此
 ノ學年度ニ限リ一學期ヲ短縮ノ件認可セラル。
 同十年四月一日皇典講究所總裁成久王殿下第二十九回卒業式ニ台臨アラセラル。
 同年十一月十九日日本大學學位規程及教授會規程制定ノ件認可セラル。
 同十一年三月十五日專門學校令ニ據ル學則ヲ改正シテ臨時專攻科ヲ置ク。
 同十一年三月二十九日第三十回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁成久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。
 同十二年一月二十六日高等師範科ヲ高等師範部ト改稱ノ件認可セラル。
 同年三月二十六日第三十一回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁成久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。
 同年四月一日總裁陸軍砲兵大佐大勳位成久王殿下佛國ニテ薨去アラセラル。
 同年五月二十三日東京市外澁谷町若木ニ新築移轉ス。

同年七月九日日本學教授三矢重松ニ對シ本學學位規程ニヨリ文學博士ノ學位ヲ授與ス。

同年十月二十五日陸軍大將大勳位邦彦王殿下ヲ皇典講究所總裁ニ奉戴ス。

同年十一月二十六日專門學校令ニ依ル國學院大學大學部ヲ廢シ、同高等師範部ヲ國學院大學附屬高等師範部ト改稱ノ件認可セララル。

同十三年一月二十二日學部及大學豫科卒業生ニ對シ明治三十六年文部省告示第三十號ノ中等教員無試験檢定ニ關スル指定ヲ受ク。

同年三月二十三日第三十二回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁邦彦王殿下御使ヲ差遣サル。

同年四月九日大正八年文部省告示第二百七十四號ヲ以テ高等學校高等科教員無試験檢定ニ關スル指定ヲ受ク。

同年五月二十二日大正七年文部省令第三號第二條第四號ニヨリ舊制大學部及高等師範部卒業生ノウチ明治四十二年七月以後ノ大學部第一種卒業者及明治四十二年三月以後ノ高等師範部第一種卒業者ニ對シ高等學校大學豫科ト同等以上ノ指定ヲ受ク。

同年五月二十七日高等師範部生徒定員變更ノ件認可セララル。(定員ヲ五百五十名トス)

同十四年三月二十日第三十三回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁邦彦王殿下御使ヲ差遣サル。

同年十月二十四日高等師範部規程第三條學科課程表變更ノ件認可(第三學年(教練二時間ヲ加フ)セララル。

同年十一月三十日學部學則中修得最少單位數三十ヲ二十四ニ變更ノ件認可セララル。

同十五年三月二十五日皇典講究所總裁邦彦王殿下第三十四回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年十二月二十六日大正十五年度ヨリ大正十九年度迄毎年補助金貳萬五千圓ヲ文部省ヨリ補助セララル旨指令アリタリ。

昭和二年二月六日學長從三位勳一等文學博士芳賀矢一薨去、皇典講究所長江木千之臨時學長ヲ兼攝ス。

同年五月廿三日附屬圖書館ノ新築成リ落成式並ニ開館式ヲ舉行ス。

同年三月八日專門學校令ニ依ル附屬神職部設立ノ件認可セララル。(定員二百十名)四月二十二日ヨリ授業ヲ開始ス。

同年三月九日故芳賀矢一氏嗣子芳賀檀氏ヨリ獎學資金トシテ金參千圓寄贈セララル。年々其利子ヲ以テ

圖書購入「芳賀家獎學圖書」トシテ附屬圖書館内ニ備附ケ永ク芳志ヲ記念スルコトトス。

同年三月二十九日皇典講究所總裁邦彦親王殿下第三十五回卒業證書授與式ニ台臨アラセラル。

同年三月三十一日從三位勳一等文學博士上田萬年學長ニ就任ス。

同年七月十八日學則中改正ノ件認可セラル。(イ)道義學科ヲ倫理科哲學科ノ二分科トス、(ロ)休業期
 間中ト雖授業料ヲ徵收スルコトトス、(ハ)休業日ヲ變更ス。
 同年八月三十日高等師範部規程「第十七條高等師範部卒業生(國文選科生ヲモ含ム)ニシテ禮典ヲ修了
 シタルモノニハ銓衡ノ上皇典講究所ノ相等學階ヲ授與ス」削除ノ件認可セラル。
 同三年三月二十六日總裁邦彥王殿下第三十六回卒業式ニ台臨アラセラル。
 同年三月二十六日大學部定員増加ノ件認可セラル。(學部三六〇、豫科二四〇トス)
 同年五月二十五日大學部學則一部改正ノ件認可セラル。「(イ)豫科ノ試験從來年三回ノ所ニ回トス
 (ロ)豫科二年ノ課程中ニ自然科學ヲ加フ。」
 同年八月三十日増築校舎(五百坪)竣成ス。
 同年十二月十八日附屬高等師範部ヲ第一部第二部ノ二部ニ分ツノ件、並ニ修業年限三年ヲ四年ニ改ム
 ルノ件認可セラル。(生徒定員五五〇ヲ七二〇トス)
 同四年一月二十七日皇典講究所總裁元帥陸軍大將大勳位邦彥王殿下薨去アラセラル。
 同年二月九日宮内省ヨリ曩ニ皇典講究所國學院大學規模擴張ノ爲メ恩旨ヲ以テ特ニ御下賜金アラセラ
 レシ處尙其ノ事業ノ狀況ヲ被聞食ニ重ネテ恩旨ヲ辱クシ、昭和四年以降十ヶ年間々々金壹萬圓宛御

下賜ノ旨御沙汰ヲ傳ヘラル。

同年同日從三位勳一等文學博士上田萬年學長ヲ辭任シ正三位勳二等文學博士服部宇之吉學長ニ就任ス。
 同年二月十九日附屬神職部學則一部改正ノ件認可セラル。「學科課程變更」
 同年同日國學院大學附屬神職部ヲ國學院大學附屬神道部ト改稱ノ件認可セラル。
 同年三月十二日元帥陸軍大將大勳位載仁親王殿下ヲ皇典講究所總裁ニ奉戴ス。
 同年三月二十二日總裁載仁親王殿下第三十七回卒業式ニ台臨アラセラル。
 同年十一月二十一日大學部學則改正ノ件認可セラル。(イ)學部開設科目ノ整備、(ロ)外國語學ヲ正科
 トス、(ハ)授業料ノ増額、(ニ)條文ノ組替及ビ整理」
 同年同日附屬高等師範部規程改正ノ件認可セラル。(イ)臨時專攻科ノ組織ヲ改メ專修科トス、(ロ)研
 究科ヲ廢止ス、(ハ)學科課程ノ改正、(ニ)授業料ノ増額、(ホ)條文ノ組替及ビ整理。」
 同五年三月二十日總裁載仁親王殿下第三十八回卒業式ニ台臨アラセラル。
 同年三月三十一日附屬神道部規程變更ノ件認可セラル。「(イ)學科課程ノ改正、(ロ)條文ノ組替及ビ整理。」
 同年四月二十四日附屬神道部本科別科第一種卒業生ニ對シ歴史科中等教員無試験檢定ノ取扱ヲ許可セ
 ラル。

同年五月一日神殿竣成祝祭式ヲ舉グ。

同年七月二日國學院大學規則ヲ改正シ學生課ヲ設置ス。

皇典講究所寄附行爲

第一 名稱及事務所

第一條 本所ハ皇典講究所ト稱ス

第二條 本所ノ事務所ヲ東京府豊多摩郡澁谷町若木九番地ニ置ク

第二 目的及事業

第三條 本所ハ皇國ノ國體ヲ講明シ道義ヲ發揚シ典故文獻ヲ研究シ且之ニ必要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第三 資産及經費

第四條 本所ノ資産ハ帝室恩賜金不動産其ノ他寄附金等ヨリ成ル
前項資産中帝室恩賜金及不動産ニシテ從來基本財産トナシタルモノ竝ニ基本財産トシテ指定セル

寄附金及協議會員ノ決議ニ依リ基本財産ニ編入シタルモノヲ以テ基本財産トス從來基本財産トナセル帝室恩賜金指定寄附金ハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ此ノ他ノ基本財産ヲ處分セントスルトキハ協議會員會ノ同意ヲ經且主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 本所ノ經費ハ資産及事業ヨリ生ズル收入其ノ他寄附金等ヲ以テ之ヲ支辨ス
每事業年度ノ豫算及決算ハ協議會員會ノ決議ニ付ス但シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マデヲ以テ事業年度トス

第四 職員及協議員

第六條 本所ニ理事十名監事二名ヲ置キ協議員之ヲ選定ス
理事中ニ於テ所長、國學院大學長、專務理事ヲ互選ス

第七條 理事及監事ノ任期ハ五ケ年トス但シ重任スルコトヲ得
理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ之ヲ補缺スベシ
補缺理事及監事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

理事及監事ハ任期滿了ノ後ト雖モ後任者ノ就任スルマデハ其ノ職務ヲ行フモノトス
第八條 本所ハ協議員三十名乃至四十名ヲ置キ所長之ヲ選定ス

第五附則

第九條 此ノ寄附行爲ヲ變更スルトキハ協議員會ノ同意ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス。

皇典講究所規則

沿革
大正八年三月十六日改正
昭和五年六月十七日改正
(同 年七月一日實施)

第一章 總則

第一條 皇典講究所ハ寄附行爲第三條ノ目的ヲ達センカタメ左ノ事業ヲ行フ

一、國體ノ講明及道義ノ發揚ニ關スル事項

二、典故文獻ノ研究 調査

三、國學院大學ノ經營及其他ノ教育事業

四、圖書雜誌ノ發行及講習 講演

第二條 本所ハ別ニ定ムル所ノ學階授與規則ニ依リ學階ヲ授與ス

第三條 本所ハ地方ニ分所ヲ置ク

分所規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 職制

第四條 本所ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第五條 本所ニ副總裁一名、顧問若干名ヲ置ク

第六條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

大學長

理事

監事

主事

書記

十二名

二名

若干名

若干名

其他必要ニ應シ臨時職員ヲ置クコトヲ得

第七條 本所ニ講師若干名ヲ置ク

第八條 本所ニ協議員三拾名乃至四拾名、評議員若干名ヲ置ク

第九條 本所ノ事業ヲ翼賛スルモノヲ協議員トス

- 第十條 總裁ハ協議員會ノ協賛ヲ經テ之ヲ推戴ス
副總裁ハ協議員會ノ協賛ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス
- 第十一條 顧問ハ理事會ノ決議ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス
- 第十二條 理事及監事ハ協議員會ニ於テ之ヲ選定ス
所長、大學長及專務理事ハ理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム
- 第十三條 主事ハ理事會ノ決議ヲ經テ所長之ヲ任免ス
- 第十四條 書記ハ所長之ヲ任免ス
- 第十五條 講師ハ所長之ヲ囑託ス
- 第十六條 協議員、評議員及協賛員ハ所長之ヲ囑託ス
- 第十七條 所長ハ所務ヲ總理シ本所ヲ代表ス
所長ハ常務ハ之ヲ專決シ重要ノ事項ハ理事會ノ決議ニ依リ執行ス
- 第十八條 所長事故アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ理事中ヨリ臨時其ノ代理者ヲ定ム
- 第十九條 大學長ハ國學院大學及本所ノ經營スル教育事業ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス
- 第二十條 大學長事故アル時ハ專務理事之ヲ代理ス

- 第二十一條 專務理事ハ所長ノ指揮ヲ受ケ常務ヲ掌理ス
- 第二十二條 常務ニ參與セシムルタメ理事會ノ決議ヲ經テ當番理事一名ヲ置クコトヲ得
- 第二十三條 專務理事事故アルトキハ當番理事之ヲ代理ス
- 第二十四條 理事ハ重要ナル所務ヲ審議決定ス
- 第二十五條 監事ハ財務ヲ監査ス
- 第二十六條 主事ハ上司ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス
- 第二十七條 書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ所務ニ服ス
- 第二十八條 講師ハ諸般ノ講習、講演及其他必要ナル事項ヲ擔當ス
- 第二十九條 本所ニ庶務、會計、擴張ノ三課ヲ置キ主事ヲ以テ課長トス
- 第三十條 本所ニ秘書係ヲ置ク

第三章 會議

- 第三十一條 會議ヲ分チテ左ノ二種トス、
一、協議員會
二、評議員會

第三十二條 協議員會及評議員會ハ毎年一回所長之ヲ召集ス

第三十三條 協議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、總裁ノ推戴、副總裁ノ推薦

二、理事及監事ノ選定

三、基本財産ノ處分

四、經費收支ノ豫算及決算

五、其他所長ニ於テ重要ト認メタル事項

六、協議員拾名以上ニ於テ提出シタル件

第三十四條 協議員會ノ議案ハ理事會ノ決議ヲ經テ所長之ヲ提出ス

第三十五條 評議員會ハ所務ニ關シテ所長ヨリ諮詢シタル事項ヲ審議ス

第三十六條 協議員會及評議員會ノ開閉ハ所長之ヲ行フ

第三十七條 協議員會ハ所長之ヲ議長トナリ議事ヲ整理ス

但所長事故アルトキハ專務理事之ヲ代理ス

評議員會ハ出席員ノ互選ニ依リ議長及副議長一名ヲ定ム

第三十八條 協議員會ハ其過半数出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

但豫メ通知シタル會議ノ事項ニ付テハ委任狀ヲ以テ他ノ協議員ニ其ノ表決ヲ委任スルコトヲ得

第三十九條 議事ハ出席者ノ過半数ニ依リ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

臨時協議員會ヲ開クコトヲ得

但場合ニ依リ書面ヲ以テ議案ヲ廻付シ表決ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ表決數ハ全員ノ過半数ナルヲ要シ可否同數ナルトキハ所長之ヲ決ス

第四章 附 則

第四十一條 此ノ規則ノ改正ヲ要スルトキハ協議員會ノ議ニ附スヘシ

國學院大學規則

第一章 總 則

第一條 國學院大學ハ皇典講究所ノ經營スル所ニシテ學部、大學豫科及附屬神道部、附屬高等師

範部ヲ置ク

第二條 本大學ハ附屬圖書館ヲ置ク

第二章 職制

第三條 本大學ニ左ノ職員ヲ置ク

一、大學長

二、學監

三、主事

四、學生監

五、附屬圖書館長

六、書記

七、學生監補

八、司書

第四條 本大學ニ左ノ教員ヲ置ク

教授

若干名

助教授

若干名

講師

若干名

第五條 本大學ニ校醫ヲ置ク

第六條 大學長ハ國學院大學及皇典講究所ノ經營スル教育事業ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス

第七條 大學長事故アルトキハ皇典講究所專務理事之ヲ代理ス

第八條 學監ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ訓育及學務ニ關スル事ヲ分掌ス

第九條 學監ハ教授若クハ講師ノ中ニ就キテ大學長ノ具申ニ依リ所長之ヲ任免ス

第十條 主事ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ大學ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十一條 學生監ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ學生生徒ノ誘掖指導及風紀衛生ニ關スル事ヲ司リ學生監補

ハ之ヲ佐ク

第十二條 附屬圖書館長ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ圖書館ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條 主事學生監及附屬圖書館長ハ大學長ノ具申ニ依リ所長之ヲ任免ス

第十四條 書記ハ上司ノ命ヲ受ケ諸般ノ事務ニ服ス

第十五條 司書ハ上司ノ命ヲ受ケ圖書館ノ事務ニ服ス

第十六條 書記、學生監補及司書ハ大學長之ヲ任免ス

第十七條 校醫ハ校舎内外並ニ學生生徒ノ衛生保健ノ事ニ當ル

第十八條 校醫ハ大學長之ヲ委囑ス

第十九條 教授講師ハ擔任ノ學科ヲ教授シ學生生徒ヲ指導ス

助教授ハ教授ノ職務ヲ佐ク

第二十條 教授助教授講師ハ大學長ノ具申ニ依リ所長之ヲ委囑ス

第二十一條 本大學ニ功勞アリタル者ニハ商議員會ノ決議ニ依リ皇典講究所總裁ノ允許ヲ得テ名譽教授ノ名稱ヲ贈ルコトアルヘシ

授ノ名稱ヲ贈ルコトアルヘシ

第二十二條 學生生徒ノ研究ニ資スルタメ研究室ヲ置キ研究室主任若干名ヲ置ク

第二十三條 研究室主任ハ教授若クハ講師ノ中ニ就キテ大學長之ヲ委囑ス

研究室ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條 本大學ニ教務、學生ノ二課ヲ置キ主事又ハ學生監ヲ以テ課長トス

第三章 會議

第二十五條 會議ヲ分チテ左ノ二種トス

一、教授會

二、商議員會

第二十六條 教授會ハ學部教授會、大學豫科教授會、附屬神道部教授會、附屬高等師範部教授會ノ四トス

第二十七條 教授會及商議員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 附則

第二十八條 此ノ規則ノ改正ヲ要スルトキハ皇典講究所協議員會ノ議ニ附スヘシ

國學院大學商議員會規程

第一條 財團法人皇典講究所規則第二十六條及ヒ第四十一條ニヨリ本大學ニ商議員會ヲ設ケテ學長ノ諮詢ニ供フ

第二條 商議員會ハ本學ノ關係者及ヒ本學ノ趣旨ヲ贊襄セル者若干名ヲ以テ組織ス

第三條 商議員ハ學長ノ推薦ニヨリテ所長之ヲ囑託ス

第四條 商議員會ハ學長ノ諮詢ニ對シテ左ノ事項ヲ審議ス

- 一、學則ノ改正ニ關スル事項
- 二、教授及ヒ講師ノ囑託ニ關スル事項
- 三、其ノ他學長ニ於テ必要アリト認メタル事項
- 第五條 商議員中常任委員拾名ヲ置キ隨時緊急ナル事項ヲ審議ス
- 第六條 常任委員ハ商議員ノ互選トシ任期ヲ三個年トス
但シ再選ヲスルコトヲ得
- 第七條 商議員會及ヒ常任委員會ニハ皇典講究所專務理事皇典講究所並ニ國學院大學主事國學院大學豫科學監附屬神道部學監附屬高等師範部學監其ノ議ニ參與ス

國學院大學教授會規程

- 第一條 本大學教授會ハ學部教授會豫科教授會高等師範部教授會神道部教授會ノ四トス
- 第二條 教授會ハ教授ヲ以テ組織シ學長之が議長トナル
學長ニ於テ必要ト認メタルトキハ教授以外ノ講師職員ヲモ列席セシムルコトヲ得
- 第三條 學部教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

- 一、學部ノ學科課程ニ關スル事項
- 二、學部ノ試験及ヒ成績ニ關スル事項
- 三、學位授與及ヒ取消ニ關スル事項
- 四、其ノ他學長ヨリ諮詢シタル事項
- 第四條 豫科教授會並ニ高等師範部教授會神道部教授會ノ審議事項ハ第三項ヲ除ク外前條ノ規程ニ準ス
- 第五條 學部教授會ハ毎月第一火曜日豫科教授會ハ毎月第二水曜日高等師範部教授會ハ毎月第三木曜日トス（七、八月ヲ除ク）

- 但シ議事ノ要件ナキトキハ前日マテニ休會ヲ通知スヘシ
- 學長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ臨時ニ教授會ヲ開クコトアルヘシ
- 第六條 學長ニ於テ必要ト認メタルトキハ本大學全部ノ教員總會ヲ召集スルコトアルヘシ

國學院大學學位規程

- 第一條 本大學ニ於テ授クル學位ハ文學博士トス

第二條 本大學研究科ニ二箇年以上在學シタル者ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得

第三條 前條ニ該當スル者ノ外論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スル者ハ願書ニ履歷書及ヒ手数料金百圓ヲ添ヘ願出ツヘシ論文ハ一篇ニ限ル但シ參考トシテ他ノ論文ヲ附加スルハ妨ナシ

第四條 論文ノ提出アリタルトキハ學長ハ學部教員中ヨリ二名以上ニ審査員ヲ囑託シ之カ審査ヲ行ハシム審査ハ特別ノ事情ナキ限り六箇月以内ニ之ヲ終了スルモノトス

第五條 審査員ハ論文ノ要旨ヲ添ヘテ學長ニ報告シ學長ハ之ヲ教授會ノ議ニ付シテ之ヲ決ス

第六條 教授會ニ於テ學位ヲ授與スヘキモノト議決シタルトキハ本大學ハ文部大臣ノ認可ヲ得テ學位ヲ授與ス

第七條 本大學ニ於テ學位ヲ授與セラレタル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル行爲アリト認ムルトキハ本大學ハ教授會ノ議決ヲ經文部大臣ノ認可ヲ得テ學位ノ授與ヲ取消ス

第八條 學位授與若クハ授與取消ニ關スル教授會ハ教授數三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議決スルコトヲ得ス

第九條 學位授與ノ議事ハ出席教授三分ノ二以上授與取消ノ議事ハ出席教授ノ四分ノ三以上ノ多數ニ依リテ之ヲ決ス決議ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十條 學位記ノ様式左ノ如シ

學位記

族籍

氏

名

右ハ本大學研究科ニ於テ規定ノ研究ヲ卒ヘ論文ヲ提出シテ教授會ノ審査ニ合格セリ仍テ學位令第二條ニ依リ茲ニ文

二條ニ依リ茲ニ文學博士ノ學位ヲ授ク

年 月 日

國學院大學

學位記

族籍

氏

名

右ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ本大學教授會ノ審査ニ合格セリ仍テ學位令第二條ニ依リ茲ニ文

學博士ノ學位ヲ授ク

年 月 日

大學令

(勅令第三百八十八號。大正七年十二月六日)
改正昭和三年七號

第一條 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ其ノ蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス

第二條 大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ單ニ一個ノ學部ヲ置クモノヲ以テ一大學ト爲スコトヲ得

學部ハ法學、工學、文學、理學、農學、經濟學及商學ノ各部トス

特別ノ必要アル場合ニ於テ實質及規模一學部ヲ構成スルニ適スルトキハ前項ノ學部ヲ分合シテ學部ヲ設クルコトヲ得

第三條 學部ニハ研究科ヲ置クヘシ

數個ノ學部ヲ置キタル大學ニ於テハ研究科間ノ聯絡協調ヲ期スル爲之ヲ綜合シテ大學院ヲ設クルコトヲ得

第四條 大學ハ帝國大學其ノ他官立ノモノノ外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ私立トナスコトヲ得

第五條 公立大學ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ北海道、府縣及市ニ限り之ヲ設立スルコトヲ得

第六條 私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ大學ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシテ之ヲ供託スヘシ

第八條 公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同シ

前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘシ

第九條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ修了シタル者、高等學校高等科ヲ卒リタル者、又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス
入學順位ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 學部ニ三年以上在學シ一定ノ試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士ト稱スルコトヲ得



前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上トス

第十一條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上其ノ他ノ者ニ在リテハ三年以上當該學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具ヘタル者ニシテ當該學部ニ於テ適當ト認メタルモノトス

第十二條 大學ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得

大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ依リ高等普通教育ヲ爲スヘシ

第十三條 大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二年トス

修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十四條 大學豫科ノ設備、編制、教員及教科書ニ付テハ高等學校高等科ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條 大學豫科ノ生徒定數ハ毎年ノ豫科修了者ノ員數カ其ノ年當該大學ニ收容シ得ル員數ヲ超過セサル程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 大學及大學豫科ノ學科ハ法令ノ範圍内ニ於テ當該大學之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 公立及私立ノ大學ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クベシ

第十八條 私立大學ノ教員ノ採用ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ公立大學ノ教員ニシテ官吏ノ待遇ヲ受ケサル者ニ付亦同シ

第十九條 公立及私立ノ大學ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第二十條 文部大臣ハ公立及私立ノ大學ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲナスコトヲ得

第二十一條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウル學校ニハ當分ノ内第二十一條ノ規定ヲ適用セス

高等學校令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十九號

三八

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス
專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高

等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以内トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學

料ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅令規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名

稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條規則ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

專 門 學 校 令

(明治三十六年三月二十七日
勅令第六十一號)
改正勅令八號

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

專門學校ニ於テハ人格ノ陶冶及國家觀念ノ養成ニ留意スヘキモノトス

專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若クハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者、又

ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ、但シ美術音

樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度竝豫科研究科及別科ニ關スル規程ハ文

部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度竝豫科、研究科及別科ニ關スル規

程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立又ハ私立ノ專門學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

文部大臣ハ公立又ハ私立ノ專門學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲
スコトヲ得

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セザ
ルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ第

四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササルモノハ前項ノ期間ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモ
ノト看做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學

專門學校、東京外國語學校東京美術學校東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

四四

國學院大學學則

第一章 總則

- 第一條 本大學ハ大學令ニ依リ道義國史國文及之カ研究應用ニ須要ナル諸學科ヲ學修研鑽セシメ國家有用ノ人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本大學ハ學部大學豫科及研究科ヲ以テ構成ス
- 第三條 在學年限ハ學部三年大學豫科二年研究科二年トス
- 第四條 大學豫科ハ高等普通教育ヲ施スト同時ニ學部ニ入ラントスル者ノ爲ニ豫備教育ヲ授クル所トス
- 第五條 研究科ハ學士試驗合格者ノ更ニ深ク其ノ蘊奧ヲ攻究スル所トス
- 第六條 學士試驗合格者ハ大學令第十條ニ依リ文學士ト稱スルコトヲ得

第二章 學年學期休業日

第七條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第九條 休業日左ノ如シ

日曜日 祝祭日 本大學記念日(十一月四日)

春季休業 自四月一日 至四月十日
夏季休業 自七月十六日 至九月十日
冬季休業 自十二月二十六日 至一月八日

第三章 入學 在學 休學 復學

第十條 入學時期ハ學年ノ始トス

第十一條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本大學豫科ヲ修了シタル者タルヘシ

但シ缺員アル場合ニ限り左記各號ノ一ニ該當スル者ハ銓衡ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、高等學校高等科卒業者

四五

二、大學令ニ依ル大學ノ學部卒業者又ハ學士試驗合格者

三、大學令ニ依ル大學ノ大學豫科修了者

四、大正七年文部省第三號第二條第四號ニ依リ指定セラレタル學校卒業者

第十二條 大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、中學校卒業者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、文部大臣ニ於テ一般專門學校ノ入學ニ關シ中學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第十三條 研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本大學學士試驗合格者タルコトヲ要ス

大學令ニ依ル大學ノ學部卒業者又ハ學士試驗合格者ニシテ入學ヲ願出ツル者アルトキハ銓衡ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 入學志願者ハ所定ノ入學願書ニ入學檢定料ヲ添へ願出ツヘシ

第十五條 本大學豫科修了者ニシテ直ニ學部ニ入學スル者ハ前條ノ手續ヲ要セス

但シ其ノ學修セントスル學科ヲ四月三十日限り届出ツヘシ

第十六條 學生轉科ヲ出願スル時ハ學年ノ始ニ限り銓衡ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ 選抜試験ノ學科目ハ其都度之ヲ定ム

第十八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ入學金ヲ添へ左記書類ヲ差出スヘシ

一、履歷書

二、戶籍謄本

三、(イ)第十二條第一號及第三號該當者ニ在リテハ卒業ニ關スル當該學校長ノ證明書

(ロ)第十二條第二號該當者ニ在リテハ合格證明書

但シ第十二條第三號該當者ニシテ師範學校卒業者ニ在リテハ前記ノ外地方長官ノ入學承認書又ハ服務義務終了證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

四、甲乙保證人連署ノ在學證書

保證人ハ其ノ父兄(父兄ナキモノハ親戚)ヲ甲保證人トシ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル成年ノ男子ヲ乙保證人トシ其ノ學生生徒在學中ニ於ケル一切ノ責ニ任スヘキモノトス 但シ父兄ノ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ住居スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第十九條 本大學豫科修了者ニシテ直ニ學部ニ入學スル者又ハ本大學學士試驗合格者ニシテ直ニ研究科ニ入學スル者ハ前條ノ手續ヲ要セス

第二十條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘシ死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第二十一條 學生生徒事故若クハ病氣ニ因リ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亙ルトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第二十二條 病氣又ハ兵役ノ義務ニ因リ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ 但シ病氣ニ因ル者ノ休學期間ハ一箇年ヲ越ユルコトヲ得ス

第二十三條 一旦退學シタル者復學セントスルトキハ退學二年以内ニ限り銓衡ノ上許可スルコトアルヘシ 但シ學部ニ在リテハ退學以前ノ在學期間及修了科目ヲ第三十八條第四十條所定ノ在學年限竝ニ單位數ニ通算シ大學豫料ニ在リテハ原學年以下ニ編入スルモノトス

第四章 入學檢定料 入學金 授業料

第二十四條 入學檢定料及入學金ハ各金五圓トス

第二十五條 授業料ハ學部年額金百拾圓大學豫科年額金九拾圓研究科年額金八拾圓トシ毎學年四月二

十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ

但シ三期ニ分納セントスル者ハ左表ニ依リ納付スヘシ

學 期	納付期日	學 部	大 學 豫 科	研 究 科
第一學期	四月二十五日迄	金四拾圓	金參拾五圓	金參拾圓
第二學期	九月二十日迄	金四拾圓	金參拾圓	金參拾圓
第三學期	一月十五日迄	金參拾圓	金貳拾五圓	金貳拾圓

第二十六條 授業料ノ納付ヲ怠リタル者ハ除籍ス

第二十七條 學生生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席スルモ授業料ヲ減免セラルルコトナシ 但シ兵役ノ義務ニ因ル休學期間ハ此限ニ在ラス

第二十八條 既納ノ入學檢定料及入學金授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第五章 賞 罰

第二十九條 學生生徒ニシテ品行端正學術優等ナル者ハ學年ノ終ニ於テ次學年ノ特待生ニ選定ス 特待生ニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第三十條 正當ノ理由ナクシテ三箇月以上引續キ缺席シタル者出席常ナラサル者又ハ學業劣等ニシ

三テ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ除籍ス
第三十一條 本學則ニ違反シ又ハ學生生徒ノ本分ニ背反セル行爲アリタルモノハ其ノ情狀ノ輕重ニ從
ヒ戒飭停學或ハ退學ニ處ス

第六章 學 部

第三十二條 學部ニ左ノ專修學科ヲ置ク

道義學科

國史學科

國文學科

道義學科ヲ分チテ倫理科及哲學科トス

第三十三條 學部ノ授業ヲ分チテ講義及演習トシ原則トシテ一學年每週二時間ノ授業ヲ以テ一單位ト

ス

第三十四條 學部ニ開設スル講義及演習左ノ如シ

- 帝國憲法(一) 古事記(一) 日本書紀(一) 神道概論(一) 神道(三)
- 皇室典範(一)

- | | | | | |
|-----------|----------|----------|-----------|-----------|
| 國民道德(一) | 倫理學概論(一) | 倫理學(一) | 日本倫理學史(一) | 東洋倫理學史(一) |
| 西洋倫理學史(一) | 哲學概論(一) | 東洋哲學(一) | 東洋哲學史(二) | 西洋哲學(二) |
| 西洋哲學史(二) | 論理學(一) | 心理學(一) | 美學(一) | 社會學(一) |
| 宗教學(一) | 佛教概論(一) | 國史學(六) | 日本法制史(二) | 東洋史學(二) |
| 西洋史學(二) | 史學研究法(一) | 古文書學(一) | 文學概論(一) | 國文學史(二) |
| 國語學(二) | 言語學(一) | 比較言語學(一) | 支那文學史(一) | 道義學演習(二) |
| 哲學演習(二) | 國史學演習(四) | 國文學演習(六) | 漢文學演習(四) | 經濟史(一) |
| 教育學(一) | 教育史(一) | 禮典(一) | 國學史(一) | 日本宗教史(一) |
| 日本美術史(一) | 日本音樂史(一) | 歷史地理(一) | 有職故實(一) | 考古學(一) |
| 人類學(一) | 圖書館學(一) | 外國語學(二) | | |

以上ノ外時宜ニ依リ講義又ハ演習ヲ開設スルコトアルヘシ

第三十五條 每學年開設スヘキ講義及演習ハ其ノ學年ノ始ニ於テ之ヲ定ム

第三十六條 學生ハ講義及演習ヲ合セテ每學年八單位以上ヲ學修スヘシ

第三十七條 學生ハ每學年學修セントスル科目ヲ學年ノ始ニ届出ツヘシ 届出ヲナササル科目ハ之ヲ

學修スルコトヲ許サス

第三十八條 學生ハ三學年間ニ左記共通科目及各專修學科ニ於ケル必修科目並ニ外國語學二單位ヲ學修スルコトヲ要シ其ノ他ハ本大學開設ノ講義及演習中ニツキ選擇履修スヘシ

共通科目(四單位)

帝國憲法(一) 古事記(一) 日本書紀(一) 神道概論(一)

道義學科倫理科必修科目(十三單位)

神道(二) 國民道德(二) 倫理學概論(一) 日本倫理學史(一) 東洋倫理學史(一)

西洋倫理學史(一) 哲學概論(二) 社會學(一) 宗教學(一) 道義學演習(二)

道義學科哲學科必修科目(十三單位)

哲學概論(一) 東洋哲學(一) 東洋哲學史(二) 西洋哲學(二) 西洋哲學史(二)

社會學(一) 東洋社會學(一) 西洋社會學(一) 哲學演習(二)

國史學科必修科目(十三單位)

國史學(四) 日本法制史(一) 東洋史學(二) 西洋史學(二) 史學研究法(一)

古文書學(一) 國史學演習(二)

國文學科必修科目(十三單位)

文學概論(一) 國文學史(二) 國語學(一) 言語學(一) 國文學演習(五)

漢文學演習(三)

第三十九條 外國語學ハ英語トス

外國語學ノ學修期間ヲ前期後期ノ二期ニ分チ第一學年ヲ前期トシ第二學年ヲ後期トス

外國語學ハ一學年每週四時間ノ授業ヲ以テ一單位トシ學生ハ每期一單位ヲ學習スルコトヲ要ス

外國語學ハ前期ノ課程ヲ修了シタル者ニアラサレハ後期ノ課程ヲ學習スルコトヲ得ス

第四十條 共通科目必修科目外國語學及選擇科目ヲ合セテ二十四單位以上ヲ修了シ尙論文試驗ヲ合格シタル者ヲ以テ學士試驗合格者トス

第四十一條 科目ノ修了ハ試験ニヨル

但シ外國語學ニ在リテハ每期ノ終ニ修了試験ヲ行フ外ニ第二學期中ニ於テ臨時試験ヲ行フモノトス

第四十二條 修了試験ヲ受ケントスル者ハ一月三十一日迄ニ受験科目ヲ届出ツヘシ

第四十三條 三箇月以上休學シタル者ハ其ノ學年ノ修了試験ヲ受クルコトヲ許サス

第四十四條 論文ノ題目ハ專修學科ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ指導教員ノ承認ヲ經テ第三學年ノ九月三十日ヲ限リ大學長ニ届出ツヘシ

第四十五條 論文ハ十二月二十五日ヲ限リ之ヲ提出スヘシ

第四十六條 試験成績ノ制定ハ百點ヲ以テ滿點トシ六十點以上ヲ以テ合格トス

第四十七條 學士試験合格者ニシテ中等學校又ハ高等學校教員無試験檢定ヲ受ケントスル者ハ文部省

告示ニ規定セラレタル科目ヲ選擇履修スヘク皇典講究所ノ學階ヲ受ケントスル者ハ禮典一單位ヲ

選擇履修スヘシ

第四十八條 論文試験ニ合格シタル者ニシテ病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ修了試験ニ缺席シタルトキハ

願ニ依リ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ 但シ追試験ヲ受ケントスル者ハ試験料金拾圓ヲ納付ス

ヘシ

第四十九條 在學六年ニ及ヒテ尙學士試験ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス 但シ休學期間ハ之ヲ算入セ

ス

第七章 大學豫科

第五十條 大學豫科各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

學科目	學年	每週授業時數	第一學年	每週授業時數	第二學年
道義	一	一		一	
國語	五	五	講讀 文法 作文 作歌	五	講讀 文法 修辭學 作文 作歌
漢文	四	四	講讀	四	講讀
英語	一〇	九	講讀 文法 會話 作文 書取	九	講讀 文法 作文 書取
獨逸語	(三)	(三)	講讀 文法	(三)	講讀
歷史	五	五	國史 東洋史	五	國史 西洋史
哲學概論		二		二	
心理學	一				
論理學	一				
法制及經濟	二	二		二	
自然科學		二		二	
體操	四	二	武道教練	二	教練
一計	(三三)	(三三)		(三三)	

獨逸語ハ隨意科目トス

第五十一條 試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第五十二條 試験成績ノ制定ハ百點ヲ以テ滿點トシ各科五十點以上平均六十點以上ヲ以テ合格トス

學年成績ハ學期試験及學年試験ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定メ修了成績ハ各學年成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

第五十三條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ學年試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニヨリ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ 但シ追試験ヲ受ケントスル者ハ試験料金拾圓ヲ納付スヘシ

第五十四條 引續キ二回學年試験ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス

第八章 研究科

第五十五條 研究科學生ハ大學長ノ承認ヲ經テ指導教員ヲ定メ研究事項ニツキ其ノ指導ヲ受クヘシ

第五十六條 研究科ニハ別ニ學科課程ヲ設ケス 但シ時宜ニヨリ講義ヲ開設スルコトアルヘシ

第五十七條 研究科學生ハ大學長ノ許可ヲ受ケ本大學開設ノ講義ヲ聽講シ又ハ演習ニ出席スルコト得

第五十八條 研究科學生ハ每學年ノ終ニ於テ其ノ研究シタル事項ニツキ報告書ヲ作製シ指導教員ヲ經

テ大學長ニ提出スヘシ

第五十九條 研究科學生ハ特ニ大學長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ他ノ業務ニ從事シ又ハ本大學所在地若クハ其ノ附近以外ノ地ニ居住スルコトヲ得ス

第六十條 研究科學生ニシテ引續キ研究セントスル場合ハ更ニ三年以内在學期間ヲ延長スルコトヲ得

第六十一條 第五十八條ノ報告ヲ怠リ若クハ其ノ成績不良ナル者ハ之ヲ除籍ス

第六十二條 研究科學生其ノ研究シタル事項ニツキ論文ヲ提出シ學位ヲ申請シタルトキハ大學長ハ學部教授會ニ之カ審査ヲ行ハシメ其ノ成績ヨリテ文學博士ノ學位ヲ授ク

學位ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第九章 選科生 聽講生

第六十三條 相當ノ學歷ヲ有シ本大學學部開設ノ科目中數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者アルトキハ

學力考査ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ 但シ外國語學ヲ選フコトヲ許サス

第六十四條 選科生ハ其ノ學修セントスル科目ヲ定メ每學年ノ始ニ於テ願出ツヘシ

第六十五條 選科生ニシテ皇典講究所學階ヲ得ントスル者ハ三學年以上在學シ禮典一單位ヲ合セ二十

五單位以上(第三十八條ノ共通科目又必修科目ヲ含ム)ヲ修了スルコトヲ要ス
第六十六條 相當ノ學力ヲ有シ本大學學部開設ノ科目中一科目以上ヲ選ヒ聽講セントスル者アルトキ

ハ每學年ノ始ニ於テ銓衡ノ上聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ
第六十七條 聽講生ニ對シテハ試験ヲ行ハス
第六十八條 選科生及聽講生ノ授業料ハ年額金百拾圓トス 但シ第二十五條學部ノ規程ニ準シ之ヲ三

期ニ分納スルコトヲ得
第六十九條 選科生及聽講生ニ對シテハ本章規定ノ外一般學則ヲ適用ス

第十章 給費貸費

第七十條 本大學學生生徒(選科生及聽講生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行端正ナル者ニハ其ノ請願ニ

依リ學資ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ
給費貸費ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
附 則

第七十一條 本學則ハ昭和五年四月一日以後入學ノ者ヨリ之ヲ適用ス

但シ昭和四年度以前ニ入學シ本學則施行ノ際現ニ在籍スル學生生徒(聽講生ヲ除ク)ノ學修及修了

ニ關シテハ舊學則第十一條及第十二條ノ規定ニ據ルコトヲ得
又昭和四年度以前ニ入學シ本學則施行ノ際現ニ學部大學豫科又ハ研究科ニ在籍スル學生生徒(聽

國學院大學學則 (舊)

第一章 大總則

第一條 本大學ハ道義國史國文及ヒ之カ研究應用ニ須要ナル諸學科ヲ學修セシメ國家有用ノ人物

ヲ養成スルヲ以テ目的トス
第二條 本大學ニ學部豫科及ヒ研究科ヲ置ク
第三條 豫科ハ學部ニ入ラントスル者ノ爲ニ豫備教育ヲ施ス所ニシテ研究科ハ學部ノ業ヲ卒ヘタ

ル者ノ更ニ深ク其ノ蘊奧ヲ究ムル所トス

- 第四條 本大學學部卒業生ハ文學士ト稱スルコトヲ得
- 第五條 本大學學部卒業生ハ皇典講究所ノ學階ヲ受クルコトヲ得
- 第六條 本大學ノ學生生徒(選科生聽講生ヲ除ク)ハ在學中徵兵令第十三條ニヨリ入營ヲ延期セラ

第二章 學科及試驗規定

第一 大學學部

- 第七條 本大學ニ設置セル專修學科左ノ如シ
 - 道義學科
 - 國史學科
 - 國文學科
- 第八條 本大學ノ授業ヲ分チテ講義及ヒ演習トシ一學年毎週二時間ヲ以テ授業一單位トス
- 第九條 學生ハ講義及ヒ演習ヲ合セテ每學年八單位上ヲ學習スヘシ
- 第十條 本大學ニ開設スル講義及ヒ演習左ノ如シ

甲 種 (每學年開設スルモノ) 數字ハ單位數ヲ示ス

- 帝國憲法及ヒ皇室典範(一) 國 民 道 德(三) 神 道(三)
- 禮 典(一) 哲 學(一) 東 洋 哲 學(二)
- 西 洋 哲 學(二) 倫 理 學(二) 教 育 學(二)
- 社 會 學(一) 東 洋 倫 理 學 史(一) 西 洋 倫 理 學 史(一)
- 東 洋 哲 學 史(二) 西 洋 哲 學 史(二) 宗 教 學(一)
- 日 本 宗 教 史(一) 國 史(四) 法 制 史(二)
- 東 洋 史(二) 西 洋 史(二) 史 學 研 究 法(一)
- 古 文 書 學(一) 文 學 概 論(一) 國 文 學 史(二)
- 國 語 學(二) 言 語 學(一) 道 義ニ關スル演習(四)
- 國史ニ關スル演習(四) 國文學ニ關スル演習(六) 漢文學ニ關スル演習(四)
- 西洋文學ニ關スル演習(三)

乙 種 (二學年間ニ一回開設スルモノ)

- 行 政 法(一) 民 法(一) 刑 法(一)

- 經濟學(一) 論理及ヒ認識論(一) 教育史(一)
- 國史(一) 日本美術史(一) 日本音樂史(一)
- 歷史地理(一) 有職故實(一) 漢文學史(一)
- 漢文法(一) 佛教概說(一)
- 憲法論(一) 考古學(一) 人類學(一)
- 比較神話學(一) 比較言語學(一) 日本風俗史(一)
- 美術史(一) 音樂通論(一) 圖書館學(一)
- 新聞學(一)

丙種 (三學年間二回開設スルモノ)

以上ノ外、科外講義ヲ開設スルコトアルヘシ

第十一條 學生ハ三學年間ニ左記ノ必修科目ヲ學修スルコトヲ要シ其ノ他ハ本大學開設ノ授業科目中ニツイテ隨意選擇シテ學修スルモノトス

道義學科 (十六單位)

一、倫理科

- 帝國憲法及ヒ皇室典範(一) 國民道徳(二) 神道(二)
- 倫理學(一) 東洋倫理學史(一) 西洋倫理學史(一)
- 國史(一) 社會學(一) 宗教學(一)
- 日本宗教史(一) 道義ニ關スル演習(四)

二、哲學科

- 帝國憲法及ヒ皇室典範(一) 國民道徳(一) 哲學概論(一)
- 東洋哲學史(一) 哲學(四) 東洋哲學(三)
- 西洋哲學史(一) 社會學(一) 東洋倫理學史(一)
- 西洋倫理學史(一)

國史學科 (十六單位)

- 帝國憲法及ヒ皇室典範(一) 國民道徳(一) 國史(四)
- 日本法制史(一) 東洋史(一) 西洋史(一)
- 史學研究法(一) 國文ニ關スル演習(四)

國文學科 (十六單位)

帝國憲法及ヒ皇室典範(一) 國 民 道 德(一) 文 學 概 論(一)
 國 文 學 史(二) 國 語 學(一) 言 語 學(一)
 國 史(二) 國文學ニ關スル演習(五) 漢文學ニ關スル講義又ハ演習(三)
 但シ教員檢定ヲ希望スル者ハ教育學(二)ヲ學修スルコトヲ要ス
 第十二條 前科ノ必修科目ト合セテ授業單位二十四以上ヲ修了シ尙ホ卒業論文試驗ニ合格シタル者
 ヲ以テ卒業トス

第十三條 科目ノ修了試驗ハ各學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第十四條 卒業論文ハ在學第三學年ノ終ニ於テ提出スルコトヲ得

第十五條 卒業論文ノ題目ハ專修學科ノ範圍ニ屬スルモノタルヘク學年ノ始ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第十六條 皇典講所ノ學階(學正)ヲ受ケントスル者ハ學部入學後禮典一單位及ヒ其ノ實習ヲ修了ス
 ルコトヲ要ス

ルコトヲ要ス

第十七條 在學六年ニ及ヒテ尙ホ卒業セサル者ハ退學シタルモノト認ム但シ休學期間ハ之ヲ算入セ
 ス

第二 豫 科

第十八條 豫科ニ於ケル各學年學科目及ヒ其ノ每週授業時數ハ左表ニ據ル

豫科學科課程(文學科)

學科目	學年	第一學年	第二學年	時每週數	時每週數
道義		講讀、文法、作文、作歌	講讀、文法、修辭學、作文、作歌	一	一
國語		講讀	講讀	四	四
漢文		講讀、文法、會話、作文、書取	講讀、文法、作文、書取	一〇	九
英語		講讀、文法	講讀	(三)	(三)
獨逸語		國史、東洋史	國史、西洋史	五	五
歷史					
哲學概論					
心理學					
論理學					
法制及經濟					
自然科學					

體操	四	教練、武道	二
計	三三		三二
總計	(三六)		(三五)

獨逸語ハ隨意科目トス

第十九條 豫科ノ試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ行ヒ學年試験ハ學年末ニ於テ之ヲ行フ

第二十條 引續キ二回學年試験ニ合格セサルモノハ除名ス

第二十一條 病氣若クハ事故ニヨリ定期試験ヲ受ケ得サルトキハ詮議ノ上追試験ヲ許可スルコトアルヘシ 但シ追試験ヲ受クル者ハ試験料金拾圓ヲ納付スヘシ

第二十二條 豫科修了生ニシテ成績優良ナルモノハ師範學校中學校高等女學校英語科教員無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第二 研究科

第二十三條 研究科ニ入學スルコトヲ得ヘキモノハ本大學卒業生タルコトヲ要ス

但シ右ト同等以上ノ學歷アル者ニ對シテハ教授會ニ於テ詮議ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 研究科學生ハ學長ノ承認ヲ經テ指導教員ヲ定メ研究事項ニツキテ其ノ指導ヲ受クヘシ

第二十五條 研究科ニハ別ニ學科課程ヲ設ケス 但シ時宜ニヨリ講義ヲ開設スルコトアルヘシ 研究科學生ハ本大學開設ノ講義ヲ聽講シ又ハ演習ニ出席スルコトヲ得

第二十六條 研究科學生ハ每學年ノ終ニ於テ其ノ研究シタル事項ニツキ報告書ヲ作製シ指導教員ヲ經テ學長ニ提出スヘシ

第二十七條 研究科學生ハ在學期間ハ二年トス 但シ引續キ研究セントスル者ハ更ニ三年以内ニ限り之ヲ延長スルコトヲ得

第二十八條 研究科學生其ノ研究シタル事項ニツキテ論文ヲ提出シタルトキハ學長ハ學部教授會ニ之ヲ審査ヲ行ハシメ其ノ成績ニヨリテ文學博士ノ學位ヲ授ク

第三章 學年 學期 休業日

第二十九條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
 第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
 第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル
 第三十一條 休業日左ノ如シ

日曜日 祝祭日 本大學記念日(十一月四日) 冬季休業 十二月二十六日ヨリ
 一月八日ニ至ル
 春季休業 三月二十六日ヨリ 夏季休業 七月十六日ヨリ
 四月十日ニ至ル 九月十日ニ至ル

第四章 入學 在學 休學 退學

第三十二條 本大學學部ニ入學セントスルモノハ本大學豫科ヲ修了シタルモノタルヘシ
 但シ缺員アル場合ニ限り左ノ順序ニヨリ入學ヲ許可スルコトアルヘシ
 一、高等學校高等科ヲ修了シタル者
 二、大學令ニヨル大學ノ學部ヲ卒業シタル者又ハ學士試験ニ合格シタル者
 三、大學令ニヨル大學ノ豫科ヲ修了シタル者
 四、大正七年文部省令第三號第二條ノ第四號ニヨリ指定セラレタル學校卒業者

第三十三條 豫科ニ入學セントスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

- 一、中學校ヲ卒業シタル者又ハ高等學校高等科一學年ノ課程ヲ修了シタル者
- 二、專門學校入學者檢定規程第五條ニヨル試験檢定ニ合格シタル者
- 三、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般ノ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者
- 第三十四條 本大學開設ノ科目中或科目ヲ選ヒテ學修セントスル者ハ學力査定ノ上選科生トシテ入學ヲ許可ス

第三十五條 選科生ニシテ第十六條ノ特典ヲ得ントスル者ハ三學年以上在學シ授業單位二十四以上(禮典ニ單位ヲ含ム)及ヒ禮典ノ實習ヲ修了スルコトヲ要ス

第三十六條 相當ノ學歷若クハ地位ヲ有シ講義ヲ聽カントスル者ハ聽講生トシテ許可スルコトアルヘシ

第三十七條 入學志願者ハ入學願書ニ規定ノ書類及ヒ入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第三十八條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

第三十九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ其ノ父兄(父兄ナキ者ハ親戚)ヲ甲保證人トシ
 東京市内又ハ隣接町村ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル者ヲ乙保證人ト定メ入學金ヲ添ヘテ在學

證書ヲ差出スヘシ 但シ父兄ノ市内又ハ隣接町村ニ住居スル者ハ乙保證人ヲ要セス
第四十條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ
届出ツヘシ

第四十一條 學生生徒事故若クハ病氣ニヨリ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亙
ルトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第四十二條 病氣又ハ兵役ノ義務ニヨリ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ 但シ病氣ニ
因ルモノ、休學期間ハ一ケ年ヲ越ユルコトヲ得ス兵役ノ義務ニヨル休學期間ハ授業料ヲ徴收セス

第四十三條 一旦退學シタルモノ復校セントスルトキハ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ入學
ノ規定ヲ準用ス 但シ入學金ヲ徴收セス

第五章 入學檢定料 入學金 授業料

第四十四條 入學檢定料金ハ金五圓入學金ハ金五圓トス

第四十五條 授業料ハ學部年額金百圓(選科生聽講生モ之ニ同シ)豫科金八拾圓研究科金五拾圓トシ毎
學年開始ノ日ヨリ一週間以内ニ之ヲ納付スヘシ 但シ三期ニ分納セントスル者ハ每學期左ノ期日

迄ニ納入スヘシ

第一期 四月三十日	學部金參拾五圓	豫科金參拾圓	研究科金貳拾圓
第二期 九月二十日	學部金參拾五圓	豫科金參拾圓	研究科金參拾圓
第三期 一月十五日	學部金參拾圓	豫科金貳拾圓	研究科金貳拾圓

第四十六條 學生生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席スルモ授業料ヲ減免セラル、コトナシ

第六章 給費 貸費

第四十七條 本大學學生生徒(選科生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行方正ナル者ニハ其ノ請願ニヨリ學資
ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ

第四十八條 給貸費ヲ受ケントスル者ハ事由書ヲ添へ願書ヲ差出スヘシ

第四十九條 給貸費額ハ一人一學年金貳百四拾圓以内トス
但シ研究科ハ參百六拾圓マテ増額スルコトヲ得

第五十條 給費ノ許可ヲ受ケタル者ハ誓約書ヲ差出スヘシ
第五十一條 貸費ノ許可ヲ受ケタル者ハ保證人連署ノ上貸費辨償契約書ヲ差出スヘシ

第五十二條 保證人ヲ變更シタル場合ニハ契約書ヲ改ムヘシ

第五十三條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ滿一ケ年以内ヲ期限トシ爾後貸費ヲ受ケタル年數ノ二倍ニ均シキ期間内ニ月賦ニヨリ返納スルモノトス

第五十四條 給貸費ヲ受クル學生生徒ニシテ休學シ又ハ停學ヲ命セラレタルモノハ其ノ給貸費ヲ止ム

第五十五條 給貸費ヲ辭シタルトキハ貸費生ハ第五十三條ニ準シテ貸費金ヲ返納スヘシ前條ニヨリ給貸費ヲ止メラレタル者ハ即時其ノ金額ヲ返納スヘシ

但シ疾病ニヨル者ハ其ノ退學セサル時ニ限り第五十四條ノ規定ニヨルコトヲ許スコトアルヘシ

第七章 賞 罰

第五十六條 學生生徒ニシテ品行方正學業優等ナル者ハ學年ノ終ニ於テ次學年ノ特待生ニ選定ス

特待生ハ授業料ヲ免除セラル、コトアルヘシ

第五十七條 規則及ヒ命令ニ違反スル等不都合ノ所爲アル者ハ其ノ輕重ニ從ヒ戒飭シ或ハ停學ニ處ス

第五十八條 品行不良ニシテ攻悛ノ見込ナシト認メタル者又ハ學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ除名又ハ退學ニ處ス

國學院大學附屬神道部規程

第一章 總 則

第一條 國學院大學附屬神道部ハ專門學校令ニ依リ神祇道義歴史及國文ニ關スル高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 修業年限ハ三年トス

第三條 生徒ヲ分チテ本科生、別科生トス

第二章 學 科 課 程

第四條 各學年ノ學科課程及每週授業時間數左ノ如シ

學科	學年	每週時數	第一學年	第二學年	第三學年
道義	四	四	國民道德、倫理學	三	神道要論、神道書、國 民道德書解題
國文	六	七	講讀、祝詞及祝詞作法、 文學史、文法作文作歌	二	講讀祝詞及祝詞作法、 文學史、文法作文作歌
漢文	二	二	講讀	二	講讀

計	體操	英語	禮典	法制	哲學	教育	地理	歷史	
								第一國史	第二國史
三七	四	三	三	四	二			九	二
	武 道 練	講 讀 及 作 文 法	神 社 祭 式 法 國 民 禮 法	憲 法 及 皇 室 典 範 法 學 通 論 神 社 概 說	心 理 學 論 理 學			神 祇 史 古 事 記 東 洋 史 西 洋 史	國 史
三六	二	三	(二)	四	二			一	二
	教 練	同 上	神 社 祭 式 雅 樂	皇 室 制 度 祭 祀 令 神 社 法 令	哲 學 概 論			神 祇 史 日 本 書 紀 東 洋 史 西 洋 史	國 史
三七	二	三	(二)	三	四	三	二	一	二
	同 上	同 上	神 社 祭 式 雅 樂	日 本 法 制 史 神 社 制 度	社 會 學 宗 教 學	教 授 法 教 育 學	地 理 學 概 說	史 學 研 究 法 考 古 學 東 洋 史 西 洋 史	國 史 國 史 演 習

備考 歴史ハ四科目トス 第二、三年ノ雅樂ハ隨意科トス

國學院大學附屬圖書館藏書

第三章 學年 學期 休業日

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條 休業日左ノ如シ

日曜日、祝祭日、本大學記念日(十一月四日) 春季休業 自四月一日——至四月十日

夏季休業 自七月十六日——至九月十日 冬季休業 自十二月二十六日——至一月八日

第四章 入學 在學 休學 復校

第八條 入學時期ハ學年ノ始トス

第九條 本科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ



- 一、中學校卒業者
 - 二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定合格者
 - 三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者
- 第十條 別科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

- 一、小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
- 二、尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者
- 三、小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

第十一條 入學志願者ハ所定ノ入學願書ニ修學證明書及入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第九條第三號ニ該當スルモノニシテ師範學校卒業者ハ服務義務年限終了ニ關スル地方長官ノ承認書ヲ添附スヘシ

第十二條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ選抜試験ノ學科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 別科生 國史、國語(講讀作文)、英語
- 別科生 歴史、外國地理、國語(講讀作文)、英語、數學(算術、代數)

第十三條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ入學金ヲ添ヘテ在學證書及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

保證人ハ其ノ父兄(父兄ナキ者ハ親戚)ヲ甲保證人トシ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル者ヲ乙保證人トシ其ノ生徒在學中ニ於ケル一切ノ責ニ任スヘキモノトス但シ父兄ノ本大學所在地又ハ其ノ附近ニ居住スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第十四條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第十五條 生徒事故若クハ病氣ニ因リ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亘ルトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第十六條 病氣又ハ兵役ノ義務ニ因リ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上届出ツヘシ 但シ病氣ニ因ルモノ、休學期間ハ一ケ年ヲ越ユルコトヲ得ス

第十七條 一旦退學シタル者復校セントスルトキハ退學二年以内ニ限リ銓衡ノ上原學年以下ニ編入スルコトアルヘシ

第五章 入學檢定料 入學金 授業料

- 第十八條 入學檢定料及入學金ハ各金五圓トス
- 第十九條 授業料ハ年額金九拾圓トシ毎學年四月二十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ 但シ三期ニ分納セントスル者ハ左表ニ依リ納付スヘシ
- 第一學期 四月二十日迄 金參拾五圓
- 第二學期 九月二十日迄 金參拾圓
- 第三學期 一月十五日迄 金貳拾五圓
- 第二十條 授業料ノ納付ヲ怠リタル者ハ除籍ス
- 第二十一條 生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席セルモ授業料ヲ減免セラル、コトナシ 但シ兵役ノ義務ニ因ル休學期間ハ此限ニ非ス
- 第二十二條 既納ノ入學檢定料入學金及授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第六章 試験及成績判定

- 第二十三條 試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ
- 第二十四條 試験成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ道義國文歴史教育哲學ノ各科目六十點以上其ノ他ノ各科目五十點以上平均六十點ヲ以テ合格トス 學年成績ハ學期試験及學年試験ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定メ學業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定ム
- 第二十五條 病氣又ハ特別ノ事故ニ依リ學年試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ 但シ追試験ヲ受ケントスル者ハ試験料金拾圓ヲ納付スヘシ
- 第二十六條 引續キ二回學年試験ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス

第七章 賞 罰

- 第二十七條 生徒ニシテ品行端正學術優等ナル者ハ特待生ニ選定ス
- 特待生ニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ
- 第二十八條 正當ノ理由ナクシテ三箇月以上引續キ缺席シタル者出席常ナラサル者又ハ學業劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ除籍ス

第二十九條 本規程ニ違反シ又ハ生徒ノ本分ニ背反スル行爲アリタル者ハ情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭停學或ハ退學ニ處ス

第八章 選科生 聽講生

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ第四條規定ノ學科目ヲ選ヒ學修セントスル者アルトキハ學力考査ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、內務大臣ノ委託ニ依ル皇典講究所神職養成部教習科(乙種)卒業シタル者

二、內務大臣ノ委託ニ依ル皇典講究所神職養成部ヲ卒業シタル者

三、皇典講究所ノ認定セル地方神職養成所ノ課程ヲ修了シ一等司業ヲ得タル者

第三十一條 選科生ハ其ノ學習セントスル學科ヲ定メ毎學年ノ始ニ於テ願出ツヘシ

第三十二條 相當ノ學力ヲ有シ第四條ノ學科目中一學科以上ヲ選ヒ聽講セントスル者アルトキハ每學年ノ始ニ於テ銓衡ノ上聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十三條 選科生及聽講生ノ授業料ハ年額九拾圓トス 但シ第十九條ノ規定ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第三十四條 聽講生ニ對シテハ試験ヲ行ハス

第三十五條 選科生及聽講生ニ對シテハ本章所定ノ外一般規程ヲ適用ス

第九章 給費 貸費

第三十六條 生徒(選科生及聽講生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行端正ナル者ニハ其ノ請願ニ依リ學費ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ

給費貸費ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第三十七條 本改正規程ハ昭和五年四月ヨリ之ヲ實施ス

國學院大學附屬高等師範部規定

第一章 總 則

第一條 國學院大學附屬高等師範部ハ專門學校令ニ依リ道義歴史國文漢文ニ關スル高等ノ學術ヲ

教授シ以テ中等學校教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 修業年限ハ四年トス

第三條 學科ヲ分チテ第一部第二部トシ生徒ヲ分チテ本科生別科生トス

第四條 第一部ニアリテハ道義國文漢文ヲ以テ主要科目トシ第二部ニアリテハ國文漢文歴史ヲ以テ主要科目トス

テ主要科目トス

第五條 國學院大學附屬高等師範部卒業生ニシテ更ニ深ク道義國文漢文歴史ヲ專攻セントスル者

ノ爲ニ專修科ヲ置ク

第二章 學科課程

第六條 第一部各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

學科	學年及每週授業時數	
	第一學年	第二學年
道義	第一	第二
倫理學	四	四
國民道德	四	四
神道概論	六	六
日本倫理學史	六	六
國民道德史	四	四
思想問題概說	四	四
西洋倫理學史	四	四

英 語	法 制 經 濟	自 然 科 學	哲 學	教 育	歷 史	漢 文				國 文			
						第 一	第 二	第 三	第 四	第 一	第 二	第 三	第 四
三	〇	〇	二	二	四	七	七	七	七	講 讀	講 讀	講 讀	講 讀
講 讀、文 法			論 理 學 心 理 學	教 育 學	國 史	漢 文 法 漢 作 文	講 讀	講 讀	講 讀	國 文 學 書 解 題 修 辭 學 作 文 作 歌	講 讀	講 讀	講 讀
三	二	二	四	一	三	七	七	七	七	講 讀	講 讀	講 讀	講 讀
講 讀、文 法	法 學 通 論	自 然 科 學	佛 教 概 論	教 育 史	國 史 實 史	漢 文 法 漢 作 文	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	國 文 學 法 文 學 史 歌	講 讀	講 讀	講 讀
三	二	〇	四	一	二	七	七	七	七	講 讀	講 讀	講 讀	講 讀
講 讀	經 濟 學		宗 教 學 美 學	教 授 法	日 本 文 化 史	漢 文 法 漢 作 文	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	國 文 學 法 文 學 史 歌	講 讀	講 讀	講 讀
二	二	〇	二	三	四	八	八	八	八	講 讀	講 讀	講 讀	講 讀
講 讀	皇 帝 國 典 憲 法		社 會 學	現 代 教 育 思 潮	東 洋 文 化 史	漢 文 法 漢 作 文	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	國 文 學 法 文 學 史 歌	講 讀	講 讀	講 讀

第七條

備考 道義ハ二科目國文漢文ハ各四科目トス
 第二部各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

學科	國文				漢文				道義	學年及每週授業時數
	第一	第二	第三	第四	第一	第二	第三	第四		
第一學年	講讀	講讀	國文學書解題	國文學法	講讀	講讀	講讀	講讀	二	國民道德
第二學年	講讀	講讀	國文學法	國文學法	支那文學史	支那文學史	支那文學史	支那文學史	二	神道概論
第三學年	講讀	講讀	國文學法	國文學法	支那文學史	支那文學史	支那文學史	支那文學史	二	東洋倫理學史
第四學年	講讀	講讀	國文學法	國文學法	支那文學史	支那文學史	支那文學史	支那文學史	二	思想問題概說
合計	三三	三三	三三	三三	三五	三五	三五	三五	三五	體操

第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 第三章 學年 學期 休業日

備考 國文及歴史漢文ハ各四科目トス

合計	體操	英語	法制經濟	哲學	教育	地理	歴史				
							第一	第二	第三	第四	
三五	四	三	〇	二	二	〇	八	國史	國史	東洋史	西洋史
三五	二	三	二	二	一	二	七	國史	有職故實	東洋史	西洋史
三六	二	三	二	二	二	二	七	日本文化史	史籍解題	東洋史	西洋史
三六	二	二	二	二	一	〇	九	現代史	學研究法	古文化史	西洋文化史

第九條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 休業日左ノ如シ

日曜日 祝祭日 本大學記念日(十一月四日)

春季休業 自四月一日
至四月十日

夏季休業 自七月十六日
至九月十日

冬季休業 自十二月二十六日
至一月八日

第四章 入學 在學 休學 復校

第十一條 入學時期ハ學年ノ始トス

第十二條 本科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、中學校卒業者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者

三、文部大臣ニ於テ一般專門學校ノ入學ニ關シ中學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第十三條 別科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

二、尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

三、小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

四、小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

第十四條 入學志願者ハ所定ノ入學願書ニ入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第十五條 志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

●選抜試験ノ學科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一部 第二部 本科生 國史國文(講讀作文文法) 漢文英語

第一部 第二部 別科生 歴史外國地理國文(講讀作文文法) 漢文英語數學(代數算術)

第十六條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ宣誓名簿ニ記名シ入學金ヲ添ヘ左記書類ヲ差出スヘシ

一、履歷書

二、戶籍謄本

三、(イ)第十二條第一號及第三號該當者ニ在リテハ卒業ニ關スル當該學校長ノ證明書

(ロ)第十二條第二號該當者ニ在リテハ合格證明書

(ハ)第十三條各號該當者ニ在リテハ免許狀授與ニ關スル當該地方長官ノ證明書

但シ第十二條第三號ニ該當スル者ニシテ師範學校卒業者ニ在リテハ前記ノ外地方長官ノ入學承認書又ハ服務義務終了證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

四、甲乙保證人連署ノ在學證書

保證人ハ其ノ父兄(父兄ナキ者ハ親戚)ヲ甲保證人トシ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル成年ノ男子ヲ乙保證人トシ其ノ生徒在學中ニ於ケル一切ノ責ニ任スヘキモノトス 但シ父兄ノ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ住居スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第十七條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第十八條 生徒事故若クハ病氣ニ因リ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亘ルト

キハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第十九條 病氣又ハ兵役ノ義務ニ因リ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ 但シ病氣ニ因ル者ノ休學期間ハ一箇年ヲ越ユルコトヲ得ス

第二十條 一旦退學シタルトキハ退學二年以内ニ限り銓衡ノ上原學年以下ニ編入スルコトアルヘシ

第五章 入學檢定料 入學金 授業料

第二十一條 入學檢定料及入學金ハ各五圓トス

第二十二條 授業料ハ年額金百圓トシ每學年四月二十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ 但シ三期ニ分納セン

トスル者ハ左表ニ依リ納付スヘシ

第一期 四月廿五日迄 金參拾五圓

第二期 九月二十日迄 金參拾五圓

第三期 一月十五日迄 金參拾圓

第二十三條 授業料ノ納付ヲ怠リタル者ハ之ヲ除籍ス

第二十四條 生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席スルモ授業料ヲ減免セララルコトナシ 但シ兵役ノ義務ニ因ル休學期間ハ此限ニアラス

第二十五條 既納ノ入學檢定料入學金及授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

九〇

第六章 試験及成績判定

第二十六條 試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第二十七條 試験成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ第一部ニアリテハ道義國文漢文歴史教育第二部ニアリテハ道義國文漢文歴史教育ノ各科目六十點以上其ノ他ノ各科目五十點以上平均六十點以上ヲ以テ合格トス

學年成績ハ學期試験及學年試験ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定メ卒業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

第二十八條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ學年試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニヨリ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ但シ追試験ヲ受ケントスル者ハ試験料金拾圓ヲ納付スヘシ

第二十九條 引續キ二回學年試験ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス

第七章 賞 罰

第三十條 生徒ニシテ品行端正學術優等ナル者ハ學年ノ終ニ於テ次學年ノ特待生ニ選定ス

特待生ニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第三十一條 正當ノ理由ナクシテ三箇月以上引續キ缺席シタル者出席常ナラサル者又ハ學業劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ除籍ス

第三十二條 本規程ニ違反シ又ハ生徒ノ本分ニ背反スル行爲アリタル者ハ其ノ情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭停學或ハ退學ニ處ス

第八章 專修科

第三十三條 專修科ノ修業年限ハ一年トス

第三十四條 專修科ノ學科ヲ分チテ第一部第二部トシ第一部ニアリテハ道義國文漢文ヲ專攻セシメ第二部ニアリテハ國文漢文歴史ヲ專攻セシム

第三十五條 專修科第一部ノ學科目及每週授業時間數左ノ如シ

時間數	學科目	時間數	學科目	時間數	學科目
二	古事記又ハ日本書紀	二	西洋倫理學史	二	國語學
二	神道概論	四	國文學	六	漢文學
二	國民道德	二	國文學史	二	漢文演習
二	東洋倫理學史	二	國文演習		

第三十六條 專修科第二部ノ學科目及每週授業時間數左ノ如シ

時間數	學科目	時間數	學科目	時間數	學科目
二	古事記又ハ日本書紀	四	國文學	六	漢文學
四	國史	二	國文學史	二	漢文演習
二	東洋史	二	國文演習		
二	西洋史	二	國語學		

第三十七條 專修科第一部若クハ第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國學院大學附屬高等師範部當該卒業者ニ限ル

第三十八條 專修科ニ入學セントスル者ハ四月三十日ヲ限リ願出ツヘシ

第三十九條 國學院大學附屬高等師範部卒業者ニシテ直ニ專修科ニ入學スル者ハ第十六條ノ手續ヲ要

セス

第四十條 專修科ノ授業料ハ年額金百圓トス 但シ第二十二條ノ規定ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第四十一條 專修科ノ試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第四十二條 專修科ノ試験成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ各科目六十點以上ヲ以テ合格トス

第四十三條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ 但シ追試験ヲ受ケントスルモノハ試験料金拾圓ヲ納付スヘシ

第四十四條 專修科生ニ對シテハ本章所定ノ外一般規程ヲ適用ス

第九章 選科生 聽講生

第四十五條 相當ノ學歷ヲ有シ第六條第七條規定ノ學科目中數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者アルト

キハ學力考查ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十六條 選科生ハ其ノ學修セントスル科目ヲ定メ毎學年ノ始ニ於テ願出ツヘシ

第四十七條 相當ノ學力ヲ有シ第六條第七條規定ノ學科目中心一科目以上ヲ選ヒテ聽講セントスル者アルトキハ學年ノ始ニ於テ銓衡ノ上聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十八條 選科生及聽講生ノ授業料ハ年額金百圓トス 但シ第二十二條ノ規定ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第四十九條 聽講生ニ對シテハ試験ヲ行ハス

第五十條 選科生及聽講生ニ對シテハ本章所定ノ外一般規程ヲ適用ス

第十章 給費 貸費

第五十一條 生徒(專修科生及選科生聽講生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行端正ナル者ニハ其ノ請願ニ依リ學費ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ

給與貸費ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第五十二條 本學則ハ昭和五年四月一日以後入學ノ者ヨリ適用ス 但シ昭和三年度以前ニ入學シ本規程施行ノ際現ニ在籍スル生徒ニシテ昭和四年度第二學年ニ於テ進級シ得サル者昭和五年度第三學年ニ於テ卒業シ得サル者ハ本規程ノ相當學年ニ編入スルモノトス 第八章專修科ニ關スル規定ハ之ヲ昭和八年四月一日ヨリ施行シ昭和五年度同六年度及同七年度ハ現行臨時專攻科規程ニ依ル又昭和四年度以前ニ入學シ本規程施行ノ際現ニ在籍スル生徒(聽講生ヲ除ク)ノ授業料ニ關シテハ昭和七年度末迄舊規程ヲ適用ス

附屬高等師範部規程 (舊)

第一條 高等師範部ハ專門學校令ニ依リ道義國史國文漢文其ノ他高等ナル學術ヲ教授シ併セテ汎ク是カ研究應用ニ須要ナル諸學科ヲ修メシメ中等學校教員ヲラントスル者ノ爲ニ資スル所トス
第二條 高等師範部ノ修業年限ハ四年トス
第三條 高等師範部ヲ第一部(修身、國語、漢文科) 第二部(國語、漢文、歷史科)ノ二部ニ分ツ

第一部 (漢文、專攻、國語) 學科課程表並ニ每週授業時數表					
學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
道義	四	國民道德論	神道概論 日本倫理學史	國民道德史 東洋倫理學史	思想問題概說 西洋倫理學史
國語	七	修文講辭 學法讀	文文學 法史讀	有職學 實史讀	國語、文學概論 近代文學概論
漢文	七	講辭 作文法讀	講文文學 法史讀	講文文學 法史讀	講文文學 法史讀
歷史	四	國史	國史	日本文化史	東洋文化史 西洋文化史
教育	二	教育學	教育史	教授法	現代教育思潮
哲學	二	心理學 理學	佛敎概論	宗教學	社會學
自然科學	〇		自然科學		
合計	〇	二	二	二	二

第二部 (國語、專攻、漢文) 學科課程表並ニ每週授業時數表					
學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
法制、經濟	〇		法學通論	經濟學	帝國憲法
英語	三	文法讀	文法讀	講讀	講讀
體操	四	武藝 練習	教練	教練	教練
合計	三	三	三	三	三

第二部 (國語、專攻、漢文) 學科課程表並ニ每週授業時數表					
學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
道義	二	國民道德論	神道概論	東洋倫理學史	思想問題概說
國語	七	修文講辭 學法讀	文文學 法史讀	有職學 實史讀	國語、文學概論 近代文學概論
漢文	七	講辭 作文法讀	講文文學 法史讀	講文文學 法史讀	講文文學 法史讀
歷史	二	國史	國史	日本文化史	東洋文化史 西洋文化史
教育	二	教育學	教育史	教授法	現代教育思潮
哲學	二	心理學 理學	佛敎概論	宗教學	社會學
自然科學	〇		自然科學		
合計	〇	二	二	二	二

第六條 相當ノ學歴アル者ニシテ單ニ講義ヲ聽カントスル者ハ聽講生トシテ許可スル事アルヘシ

第七條 高等師範部第一種生ハ徵兵令ニヨリ在學中入營ヲ延期セラル

第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 休業日左ノ如シ

日曜日 祝祭日 本大學記念日(十一月四日)

春季休業 (三月二十六日ヨリ
四月十日ニ至ル)

夏季休業 (七月十六日ヨリ
九月十日ニ至ル)

冬季休業 (十二月二十六日ヨリ
一月八日ニ至ル)

第十一條 高等師範部ノ試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トス

學年試験ハ學年末ニ於テ施行スルモノトス

學期試験ハ第二學期ニ於テ每學年一回施行スルモノトス

第十二條 學年成績ハ各學科ニ就キ學年及ヒ學期ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

卒業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ算出スルモノトス

第十三條 試験ノ評點ハ百點滿點トシ各學科六十點以上ヲ及第トス

第十四條 生徒病氣若クハ事故ニヨリ學年試験ヲ受ケサル場合ハ銓議ノ上追試験ヲ許可スルコトアルヘシ

但シ追試験ヲ受ケントスル者ハ試験料金拾圓ヲ豫メ納付スヘシ

第十五條 高等師範部ノ授業料ハ一學年金九拾圓トス

授業料ハ學年開始ノ日ヨリ一週間以内ニ納付スヘシ

但シ三期ニ分納セントスルモノハ每學期左ノ期日迄ニ納付スヘシ

第一期 四月二十日 金參拾圓

第二期 九月二十日 金參拾圓

第三期 一月十五日 金參拾圓

第十六條 高等師範部卒業生ハ明治四十一年文部省令第三十二號ニヨリ師範學校中學校高等女學校
教員無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第十七條 高等師範部卒業生ニシテ更ニ特殊ノ事項ヲ研究セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク
第十八條 高等師範部生徒ニ對シテハ本規程ノ外本大學ノ學則ヲ準用ス

附 則

(イ) 本改正規程ハ昭和四年四月入學ノモノヨリ之ヲ適用ス
(ロ) 舊規程ノ在學生ニシテ昭和三年度第一學年ニ於テ進級シ得サルモノ昭和四年度第二學年ニ於テ
進級シ得サルモノ昭和五年度第三學年ニ於テ卒業シ得サルモノハ改正規程ノ相當學年ニ編入ス
ルモノトス

臨時專攻科規程

第一條 臨時專攻科ハ本大學ノ前身タリシ專門學校令ニヨル國學院大學ノ大學部、高等師範部第十
期(明治三十五年七月卒業)以後ノ卒業生ニシテ師範學校、中學校、高等女學校ノ教員タラントス
ル者ノ爲ニ須要專門ノ學科ヲ授クル所トス

第二條 臨時專攻科ハ一年ヲ以テ卒業トス

第三條 臨時專攻科ヲ歴史部ト國語漢文部トノ二部ニ分ツ

第四條 臨時專攻科卒業生ハ明治四十一年文部省令第三十二號ニヨリテ師範學校、中學校、高等女
學校教員無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第五條 歴史部ノ學科及ヒ授業時間數左ノ如シ

必修科目		選擇科目	
科目	一週授業時數	科目	一週授業時數
國史	六	倫理學	二
東洋史	四	宗教史	二
西洋史	四	美術史	二
史學演習	二	文哲史	二
史學研究法	二	哲學史	二
社會學	二	法制史	二
		神祇史	二

第六條 國語漢文部ノ學科及ヒ授業時間數左ノ如シ

備考	必修科目		選擇科目	
	科目	時一週授業數	科目	時一週授業數
選擇科目ハ三科目ヲ隨意選擇スルコトヲ得 一週授業時數ハ二十四時間トス	學科	四	學科	二
	國文學演習	四	文學概論	二
	國文學史	二	神道	二
	國文讀本演習	二	東洋哲學史	二
	國語學	二	宗教學	二
	漢文學演習	四	言語學	二
	漢文學史	二	佛敎概說	二
	漢文讀本演習	二	社會學	二

第七條 臨時專攻科ノ授業料ハ附屬高等師範部ニ準據ス
第八條 臨時專攻科生徒ニ對シテハ本規程ノ外本大學ノ學則ヲ準用ス

昭和五年度學科配當

一 學 部

帝國憲法及皇室典範	古事記	日本書紀	神道概論	神道(神祇史)	國民道德(國民道德史)	同
教授 杉村章三	同 山本信哉	同 松本愛重	同 田中義能	同 宮地直一	同 寬克彦	同 河野省三
講師 深作安文						

倫理學概論	日本倫理學史	東洋倫理學史	西洋倫理學史	哲學概論	東洋哲學	東洋哲學史	西洋哲學	西洋哲學史	同	論理學	社會學	宗教學	佛教概論
教授	講師	教授	講師	教授	同	同	講師	同	同	教授	同	同	同
松	岩	小	長	松	小	花	見	斯	同	松	今	加	花
永	橋	柳	屋	永	柳	山	尾	波	同	永	井	藤	山
英	遵	司	喜	氣	氣	信	勝	義	同	時	玄	信	信
松	成	太	一	材	太	勝	馬	慧	同	材	郎	智	勝

國史學(上代史)	同(王朝史)	同(鎌倉史)	同(室町史)	同(德川史)	日本法制史	東洋史學	同	西洋史學	同	史學研究法	古文書學	文學概論	國文學史
教授	同	同	同	同	同	同	同	講師	同	教授	同	講師	教授
植	和	龍	渡	井	植	松	市	齋	同	坪	岩	石	折
木	田	邊	邊	野	木	井	村	藤	同	井	橋	幡	口
直	英	世	茂	邊	直	井	瓚	清	同	九	小	五	信
一郎	松	祐	雄	一	郎	等	郎	太郎	同	馬	彌	郎	夫

三 神道部

第一學年

國民道德	倫理學、論理學	心理學	國史	神祇史	國史演習	東洋史	西洋史	國語講讀	同	祝詞講義	祝詞作法
教授	講師	同	教授	同	講師	教授	同	同	同	同	講師
河野省三	古田良一	見尾勝馬	植木直一郎	河野省三	佐伯有義	森田鐵三郎	森田鐵三郎	今泉忠義	堀江秀雄	御巫清真	飯田秀真

國文學史	國文法	作文作歌	漢文講讀	同	憲法皇室典範及法學通論	神社概說	神社祭式	國民禮法	英語講讀	英作文法	武	同	同
講師	教授	講師	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
西角井正慶	御巫清勇	岩崎春彦	中野佐柿	守谷武文郎	澤田好文	平岡好文	大塚承一	大塚承一	坂井正一	坂井正一	矢田季夫	三船久藏	大內義一

教 練

第三學年

國民道德史
社會學
宗 教 學
教 育 學
教 授 法
國 史 演 習
西 洋 史
史 學 概 論
考 古 學

教 授
同 同
講 師
同 同
同 同
同 同
同 同

河 野 省 三
今 井 時 郎
加 藤 玄 智
伏 見 猛 彌
飯 田 晃 三
大 森 金 五 郎
宮 地 直 一
森 田 鐵 三 郎
小 林 健 三
大 場 磐 雄

配 屬 將 校

東洋文化史
地理學概說
國 語 講 讀
同
作 文 歌
漢 文 講 讀
日 本 法 制 史
神 社 制 度
神 社 祭 式
英 語 講 讀、英 作 文 法
雅 樂
休 操 (教 練)

教 授
講 師
教 授
講 師
同 同
同 同
同 同
同 同

松 井 三 郎
猪 間 收 三
鳥 野 幸 次
西 角 井 正 慶
鳥 野 幸 次
小 柳 司 氣 太
植 木 直 一 郎
角 南 隆
大 塚 承 一
近 藤 宗 男
東 儀 民 四
辻 儀 民 四
豐 儀 民 四
配 屬 將 校

倫理學

講師

古

田

良

一

(第一部專修科目)

東洋史
西洋史

教授

松

井

鐵

三郎等

第二學年

(第一部第二部共通學科)

神道概論

教授

田

中

義

能

枕草子

同

金

子

元

臣

平家物語

同

鳥

野

幸

次

古事記

同

松

本

愛

重

論曲狂言

同

堀

江

秀

雄

文學史

同

折

口

信

夫

國文法

講師

高

橋

龍

雄

作文

講師

尾

崎

久

彌

韓非子詩經

同

池

野

幸

次

荀子

講師

熊

坂

圭

三

史記

同

尾

川

敬

二

支那文學史

同

安

藤

円

秀

漢文法、漢作文

同

山

田

立

夫

國史

教授

植

木

直

一

教育史

同

長

谷

川

乙

哲學概論

同

松

永

乙

彦

自然科學

講師

雨

宮

保

衛

法學通論

教授

江

刺

喜

四

英語

講師

山

田

正

形

教練

講師

配

屬

將

校

(第一部專修科目)

日本倫理學史
佛教概說

(第二部專修科目)

東洋史
西洋史

第三學年

國民道德
祝詞宣命
萬葉集
源氏物語
國文法

講師
教授

岩橋

山橋

信遵

勝成

一二四

教授

松井

森田

鐵三

郎等

教授

箕克

次田

潤彦

吉潤

教授

武田

折口

信祐

夫吉

同

松尾

捨治

郎

夫

教授

堀江

秀雄

同

金山

一京

助

同

山崎

尾捨

治

郎

同

松尾

捨治

郎

同

折口

信

夫

同

小柳

司氣

太

同

池田

四郎

次郎

講師

新田

四郎

次郎

教授

池田

四郎

次郎

同

松井

等

講師

新田

三

同

熊坂

圭

同

新田

三

教授

大森

金五

郎

同

新田

興

一二五

國語教授演習
言語學
國文學史
作文
老子莊子
書經
易經
禮記
現代文
支那文學史
漢文教授演習
漢作文作詩
國史

堀江 秀雄
金山 一京 助
山崎 尾捨 治 郎
松尾 捨治 郎
折口 信 夫
小柳 司氣 太
池田 四郎 次郎
新田 四郎 次郎 興
池田 四郎 次郎
松井 等
新田 三
熊坂 圭
新田 三
大森 金五 郎

有職故實
教育學教授法
帝國憲法
現行法
英語
教練

同
講師
教授
松本愛重
飯田晃三
杉村章三郎
飯沼一省
尾崎忠男
配屬將校

一二六

皇典講究所國學院大學職員

總裁 載仁親王殿下

顧問

伯爵清 浦 奎 吾
市外荏原郡入新井町
電高輪五三〇〇

子爵澁 澤 榮 一
市外王子町飛鳥山
電小石川四六〇

伯爵德 川 達、孝
芝區三田綱町一
電高輪二〇七五

法學博士 水野 鍊 太郎
芝區白金猿町六〇
電高輪一八〇

江 木 千 之
牛込區余丁町三五
電四谷二五二五

大 谷 嘉 兵 衛
神奈川縣鎌倉町雪ノ下

岡 田 良 平
小石川區原町一二五
電小石川九八五

法學博士 一 木 喜 德 郎
麴町區一番地
電四谷二一八七

一二七

文學博士 上田萬年

小石川區駕籠町一六一
電大塚九二一

理事

(所長)

江木千之

牛込區余丁町三五
電四谷二五二五

(學長)

文學博士 服部宇之吉

府下戶塚町諏訪一八二
電牛込二三六〇

(專務)

岩元禧

赤坂區青山南町六ノ一四
電青山四七八八

(當番)

宮西惟助

本郷區駒込林町四〇
電小石川七六三六

一三八

今泉定介

芝區三田綱町九
電高輪二〇五五

內

藤久寬

麻布區材木町三六
電青山六五六五

佐々

木勇之助

本郷區弓町二ノ一九
電小石川三二〇〇

文學博士 三上參次

本郷區駒込林町一六九
電小石川四六〇〇

井上

準之助

麻布區三河臺町三一
電青山五七五〇

松尾

捨治郎

川崎市京町一ノ二二三

監事

法學博士 水町袈裟六

澁谷町神山
電青山七〇〇二

本山彦一

大阪府泉北郡高石町

國學院大學商議員

赤司應一郎

本郷區春木町三ノ三九
電小石川七三〇〇

石川岩吉

芝區高輪西台町一ノ一官舎
電高輪六八〇〇

東京帝國大學名譽教授
帝國學士院會員
文士

市村瓊次郎
市外戶塚町字諏訪八〇

一三九

今泉定介

芝區三田綱町九
電高輪二〇五五

內

藤久寬

麻布區材木町三六
電青山六五六五

佐々

木勇之助

本郷區弓町二ノ一九
電小石川三二〇〇

文學博士 三上參次

本郷區駒込林町一六九
電小石川四六〇〇

井上

準之助

麻布區三河臺町三一
電青山五七五〇

松尾

捨治郎

川崎市京町一ノ二二三

植木直一郎

赤坂區青山北町六ノ五〇

河野省三

澁谷町金王七〇、大雲館

電青山二三九〇

神崎

一作

市外千駄ヶ谷六五五

電四谷九一〇

澤田

章

赤坂區青山南町五ノ四五

侯爵 佐佐木

行忠

赤坂區青山南町六ノ一〇八

電青山七七〇五

男爵 千秋

季隆

市外千駄ヶ谷原宿一七〇、一三號

電青山一四〇

一二九

東京帝國大學名譽教授
帝國學士院會員
文士

文學博士

松本愛重

松浦鎮次郎

小石川區若荷町四九
電小石川三一〇〇

市外青山種田一六

三上參次

本郷區駒込林町一六九
電小石川四六〇〇

宮西惟助

本郷區駒込林町四〇
電小石川七六三六

文學博士 山本信哉

市外淀橋町角管七二五

塚本清治

市外戸塚宮田三八二
電牛込四四六

文學博士 小柳司氣太

市外雜司谷淺井原九七四
折口信夫

市外大井町五〇五二

豫科學監

文學士 松井等

牛込區矢來町六九
電牛込二一三

神道部學監

河野省三

澁谷町金王七〇、大雲館
電青山二三九〇

高等師範部學監

堀江秀雄

市外高圓寺二二九

教務課

課長(主事)

小林大次郎

市外杉並町馬橋一二二
(中央線阿佐ヶ谷驛下車)

守谷武文

澁谷町大和田六二

小川沖之介

市外荏原町戸越八二〇

鈴木茂枝

牛込區水道町五二

岩下宜令

市外品川町南品川二日市二八九

星野輝夫

芝區芝公園五號地ノ五

學生課

課長事務取扱(理事)

松尾拾治郎

川崎市京町一ノ二二三

人事係(主事) 阿部正秀

市外高圓寺五六三

學生監囑託

本江政一

澁谷町宇田川二八ノ二
僧行社住宅リ號

神職養成部專任

中野佐柿

澁谷町羽澤三四

學生監補

山本吉之助

市外駒澤町下馬字清水一、〇八六

吉川弘中

澁谷町金王九 小俣方

雜誌部

編輯主任

進藤讓

澁谷町常勢松六四

皇典講究所庶務課

課長心得 (主事)

澁谷 吉福

市外上目黒二五六八

大野 政虎

小石川區原町一三三

電小石川五三四七

森田 四郎

市外入新井町不入斗二一

鈴木 貞治

市外上目黒二五九四

皇典講究所會計課

課長 (囑託)

山下 三次

市外松澤村松原八八三

大場 賢治

市外世田ヶ谷町字上町四一一

一三二

樋爪 文一

麴町區飯田町五ノ三

坂井 登

市外岩淵町字赤羽八九四

鹽田 勳

市外世田ヶ谷太子堂三一

皇典講究所擴張課

課長事務取扱 (理事)

岩元 禧

赤坂區青山南町六ノ一四

電青山四七八八

兼 (主事)

澁谷 吉福

市外上目黒二五六八

兼

横山 祐丸

市外中野町上ノ原八一六

秘書

横山 祐丸

市外中野町上ノ原八一六

兼

大野 政虎

小石川區原町一三二

電小石川五三四七

附屬圖書館

館長

澤田 章

赤坂區青山南町五ノ四五

吉田 吉郎

京橋區月島東河岸通三ノ五 五味方

松宮 靜二

澁谷町羽澤七六

校醫

宮崎 秋一

本郷區金助町三九 吉田方

安田 勝武

牛込區若松町六七

菊池 武經

市外澁谷町若木八吸江寺

小川 徳與

澁谷町氷川二七

電青山六五五〇

教員

文學士法學士 阿部 國治

本郷區曙町四

一三三

文學士 阿部重孝

市外巢鴨町上駒込八三五

電小石川六七八五

阿部正秀

市外高圓寺五六三

醫學博士 雨宮保衛

四谷區船町四四

文學士 安藤圓秀

市外世田ヶ谷町池尻二三七

電世田ヶ谷五二一

池田四郎次郎

赤坂區青山南町六ノ一四七

電青山二〇五一

文學士 石幡五郎

市外世田ヶ谷町下北澤八四〇

一三四

(劍道) 教士 市毛正平

市外千駄ヶ谷七四六

文學博士 市村環次郎

市外戸塚町字諏訪八〇

文學士 岩橋遵成

小石川區竹早町六八

岩橋小彌太

市外西巢鴨町宮仲二二九九

岩崎春彦

本郷區眞砂町六

文學士 飯田晃三

千葉縣市川町大門向五九九

飯田秀眞

市外代々木八七

飯沼一省

市外下落合八一

電牛込七七六

文學士 今井時郎

神奈川縣逗子町久木二五二

今泉忠義

麻布區斧町八〇

文學博士 入澤宗壽

市外田端西臺六三〇

植木直一郎

赤坂區青山北町六ノ五〇

文學士法學士 江刺喜四郎

赤坂區丹後町一

電青山一二六一

(弓道) 範士 大内義一

市外巢鴨町庚申塚側

文學士 太田善男

牛込區市谷宮久町七九

大塚承一

市外杉並町大字田端關口一二一

大場磐雄

府下武藏野町吉祥寺一七六ノ三

文學士 大森金五郎

市外高田町高田一一三七

河野省三

市外澁谷町金王七〇、大雲館

電青山二三九〇

法學博士 笈克彦

牛込區北町七

電牛込一八

文學博士 加藤玄智

小石川區丸山町一一

電大塚二七〇

一三五

文學博士 金澤 庄三郎

本郷區曙町七

金子 元 臣

小石川區白山御殿町一一〇

電小石川六五二六

文學士 上條 辰藏

本郷區駒込曙町一六

文學博士 紀 正美

本郷千駄木町五七

電小石川六二八四

文學士 金田 一 京助

市外杉並町成宗三三二

文學士 菊地 武一

市外高田町雜司ヶ谷旭出五〇

熊坂 圭三

小石川區久堅町七四ノ三三號

一三六

文學博士 黑板 勝美

市外澁谷町櫻丘七八

電青山八六八

文學士 小林 健三

本郷區駒込千駄木町五〇

小林 大次郎

市外杉並町馬橋一二二

文學博士 小柳 司氣太

市外雜司谷淺井原九四七

渾大 防小平

市外南品川宿苗木原一二五四

文學士 近藤 宗男

市外千駄ヶ谷原宿二七一

文學士 齋藤 清太郎

神奈川縣鎌倉町亂橋材木座上河原一〇三

齋藤 惇

小石川區雜司谷金山三三二

文學士 坂井 正一

市外澁川町田端四〇八

澤田 章

赤坂區青山南町五ノ四五

法學士 澤田 五郎

麻布區筭町神道本局傍

佐伯 有義

市外西大久保三七三

文學士 志田 義秀

市外世田ヶ谷代田六八二

文學士 斯波 義慧

小石川區林町九五

法學士 杉村 章三郎

小石川區原町一二五

鈴木 文四郎

市外上落合四七〇

電四谷三四四〇

工學士 角南 隆

市外高田町巢鴨字代地三五四一

文學士 曾根 保

牛込區北山伏町三二

文學博士 關根 正直

小石川區駕籠町二二二

電小石川四六七三

文學博士 高野 辰之

市外代々木中山谷一六七

電四谷七六二

一三七

高橋龍雄
市外西大久保三六五

高橋嶮
澁谷町常磐松御料地
電青山六五五五

高柳光壽
市外澁ノ川中里三九八

武田祐吉
市外高井戸村中高井戸字北三三

文學博士 田中義能
小石川區白山御殿町一〇七

理學士 田邊尙雄
市外下落合五四六

一三八

千葉胤明
四谷區南町九
電四谷五五八〇

文學士 次田潤
市外池袋一五三九

文學博士 辻善之助
市外戸塚七八三
電牛込一五七八

辻英吉
牛込區原町三ノ六八

文學博士 坪井九馬三
本郷區彌生町三
電小石川二五四〇

鳥野幸次
市外上目黒町宿山一四四〇

文學博士 鳥居龍藏

麻布區霞町二一
電青山六〇四五

東儀民四郎
牛込區砂土原町三ノ八

法學士 中村至道
澁谷町代官山アバト五ノ三三

中野佐柿
澁谷町羽澤三四

文學士 長屋喜一
本郷區駒込神明町三一〇

文學士 西田宏
澁谷町羽澤五三

西角井正慶
埼玉縣大宮町

新田興

市外巢鴨町三ノ二

長谷川乙彦

赤坂區新坂町三二

花桐清二郎

市外池上市ノ倉三六六

文學士 花山信勝

市外西大久保一九

氷室昭長

神奈川縣鎌倉町雪之下

平岡好文

京橋區佃島三

電京橋二四二〇

文學博士 深作安文

市外千駄谷九〇二

電四谷一〇一六

一三九

文學士 藤 懸 靜 也
市外淀橋柏木九一六

文學博士 藤 村 作
市外代々木山谷一六〇

文學士 藤 井 章
市外高圓寺六三七

文學士 古 田 良 一
本郷區西片町五

豐 時 義
牛込區市谷富久町一〇一

堀 江 秀 雄
市外高圓寺二二九

松下 大三郎
市外中野町中野四〇七六

文學士 松 永 材
市外井荻村下荻窪三六〇

文學博士 松 本 愛 重
市外青山穩田一六

文學士 松 井 等
牛込區矢來町六九
電牛込二二三

松 尾 捨 治 郎
川崎市京町一ノ二二三

文學士 御 巫 清 勇
市外瀧ノ川町田端五〇一

(柔道) 範 三 船 久 藏
小石川區中富坂町一九
電小石川七四二九

文學博士 宮 地 直 一
市外代々木山谷一七五ノ一
電四谷三四四五

宮 西 惟 助
本郷區駒込林町四〇
電小石川七六三六

文學士 見 尾 勝 馬
市外上練馬字東向山

文學士 森 田 鐵 三 郎
市外田端六五三
電小石川二八六

守 谷 武 文
澁谷町大和田六二

矢 田 季 夫
市外野方町沼袋一二三九

文學士 山 崎 麓
市外目黒町上目黒宿山一四四〇

山 田 立 夫
市外代々木富谷一四六七

山 田 正 形
市外代々木富谷一四六七

文學博士 山 本 信 哉
市外淀橋角筈七二五

文學士 山 下 恒 次
市外巢鴨宮下一七九三

文學士 龍 肅
市外杉並町阿佐谷二一三

文學博士 和 田 英 松
市外千駄谷五三八
電青七七八七

文學博士 和 田 萬 吉
本郷區西片町一〇

文學博士 渡 邊 世 祐
小石川區林町九五
電小石川六〇〇二

井野邊茂雄
本郷區駒込淺嘉町七八

猪間收三郎
市外高田雜司谷九二〇

遠藤千代亮
澁谷町中通二ノ三〇

尾川敬二
市外中野町打越二二〇一

小笠原國彦
市外高圓寺九九六

法學博士 尾佐竹猛
市外千駄ヶ谷四七〇

文學士 荻野仲三郎
市外杉並町阿佐谷小山四二

一四二

尾崎久彌
小石川區大塚上町一五中西方

文學士 尾崎忠男
小石川區第六天町二三

折口信夫
市外大井町五〇五二

配屬將校

陸軍砲兵大佐 近藤貞雄
牛込區市谷臺町二二

陸軍歩兵中佐 根本莊
市外中野町上町二七四三

陸軍歩兵大尉 本江政一
澁谷町宇田川二八ノ二
借行社住宅リ號

道義研究室

第一分科主任

河野省三
澁谷町金王七〇大雲館

電青山二三九〇

第二分科主任

文學士 松永材
市外井荻町下荻窪三六〇

助

手文學士 岸本芳雄
市外西巢鴨町池袋八七三

國史研究室

第一分科主任

植木直一郎
赤坂區青山北町六ノ五〇

第二分科主任

文學士 松井等
牛込區矢來町六九
電牛込二二三

國文研究室

助

手文學士 祝宮靜
市外杉並町馬橋二四三

第一分科主任 文學博士 金澤庄三郎
本郷區曙町七

第二分科主任 折口信夫
市外大井町五〇五二

助

手文學士 向山武雄
澁谷町常磐松六五 河西方

青池竹次	青山茂	天野鈴雄	石本統吉	魚住信義	大西雪夫	大脇錦郎	粕谷好彦	菊地濱一郎	桑江良藏	倉石正	小池賢三郎	小池元男	小宮一郎	櫻木清憲	佐々川秀彦	島田博	高野鹿四雄	高崎英雄
本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	東北學院 東部文庫 本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
京都	靜岡	靜岡	兵庫	熊本	三重	岐阜	埼玉	宮城	東京	長野	長野	長野	東京	大分	福岡	神奈川	茨城	福岡
武田	津田	土屋	土屋	中里	永山	中野	中野	原野	日野	堀野	松田	松田	三門	道田	保岸	保岸	矢野	山田
武久	秀二	貞男	達郎	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫	保夫
本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
和歌山	神奈川	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
山本	行待	吉田	吉田	與田	渡邊	遠藤	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方
本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
和歌山	京都	神奈川	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山
山本	行待	吉田	吉田	與田	渡邊	遠藤	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方	緒方
本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
和歌山	京都	神奈川	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山

飯尾	上野	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平	大來修平
本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
靜岡	群馬	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重	三重
鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木
本學高師	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
埼玉	山形	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知
三浦	森田	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木
本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
宮城	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京
三浦	森田	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木	八木
本學豫科	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
宮城	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京

學部 國文學科

昭和二年度
石堂虎彦 本學豫科
高山久太郎 同
西原毅美 同
三宅親連 同
昭和三年度
石堂虎彦 本學豫科
高山久太郎 同
西原毅美 同
三宅親連 同

竹内泰立	高垣舒夫	關口竹治	鈴木正藏	棟葉廉一	白井吉彦	白石宗夫	清水清隆	築田三郎	佐藤一	佐藤謙三	神田凌次郎	神田謙三	小森太郎	兒玉義方	小谷恒男	古生治男	小池俊雄
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
岡山	北海道	靜岡	東京	靜岡	愛知	大阪	長野	神奈川	秋田	神奈川	秋田	神奈川	岐阜	廣島	香川	廣島	埼玉
松本彌三郎	札幌眞一	福井岩榮	深見光信	東角井光臣	板東三郎	早坂明夫	野呂莊忠貢	西川五十雄	並木五雄	中村崧雄	中村崧雄	中島左内	内藤小太郎	時松節夫	寺本正嗣	田邊正男	田中義人
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
東京	北海道	青森	愛知	埼玉	徳島	宮城	北海道	和歌山	東京	石川	新潟	北海道	宮崎	福岡	大分	和歌山	三重
岡村	遠藤	井邊	井上	李家	吉田	横井	山田	柳井	安増	安江	八坂	八木	森照	宮崎	宮崎	水野	三田村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
長野	徳島	和歌山	愛知	廣島	長崎	山口	群馬	福岡	岐阜	大分	静岡	東京	神奈川	山梨	長野	新潟	愛媛

島原信一	佐藤守弘	佐藤寅雄	佐々木信夫	佐々木雄夫	小林俊雄	興相政夫	毛涯四郎	北山長雄	北村公佐	北澤怡佐雄	河野喜代士	河野四郎	大田保	江田清治	江崎武男	上野美男	内海元
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	本學豫科	本學高師	同	同	本學豫科
三重	北海道	北海道	福岡	宮崎	宮崎	長野	長野	長野	青森	神奈川	埼玉	大分	新潟	神奈川	兵庫	東京	茨城
吉田眞治郎	山中義哉	山田助太郎	森川正一	三村達磨	松崎健	牧原一	渡多江武	伯口左門	沼口美	中山四郎	土田知雄	千阪正三	田中登	田澤俊三	竹屋政康	大栗寺良武	鈴木詮
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
栃木	大阪	山梨	神奈川	福岡	岡山	栃木	廣島	福岡	福岡	鹿兒島	茨城	京都	徳島	長野	東京	山形	靜岡
北澤治雄	河合長俊	神生武司	金澤善武	加藤周一郎	大坪時夫	押木耿介	上田知唐	稻垣務道	伊藤眞琴	池田慎一郎	新野尾道夫	荒川一磨	小澤浩	尾崎恒雄	岡崎昇	井上一	井上一
同	同	同	同	同	同	同	同	本學豫科	本學高師	同	同	同	本學豫科	昭和五年度	青山學院	同	同
東京	石川	茨城	岩手	静岡	佐賀	新潟	石川	大阪	三重	北海道	北海道	福岡	長野	神奈川	茨城	岐阜	岐阜

豫科 第二學年甲組

尾原 亨同	鳥根 植田 義三 治 高松中	香川 余本 種 幸 高津中	大阪
大貫 良夫 厚木中	神奈川 倉橋 正 二 岡崎中	愛知 千葉	
大井 彦次郎 宇部中	山形 黑住 忠 利 第一岡山中	岡崎中	
河野 道雄 不動岡中	埼玉 小賀 建 樹 耐久中	和歌山	
上妻 芳助 川内中	鹿兒島 後 藤 毅 秋田中	秋田	
影山 正治 豐橋中	愛知 小林 景 樹 中村中	高知	
加藤 光雄 高津中	大 阪 金光 實司之助 金光中	岡山	
香取 正世 市立二中	東 京 齊藤 俊 雄 濱松一中	靜岡	
金子 秀雅 九子農商	長 野 佐藤 瑞 枝 宇治山田中	群馬	
川上 正謙 佐伯中	福 岡 藤塚 春 昌 赤坂中	廣島	
甲斐 豊雄 慶應普通	神奈川 鹽田 建 明 豊津中	東京	
齋木 直行 橫濱一中	靜岡 島田 勝 忠 海城中	東京	
龜山 實 庵原中	東 京 白川 貞 一 化學工業	東京	
菊池 豐 豐明治學院中	東 京 鈴木 一 郎 國士館中	東京	
木村 頌 飯田中	長 野 鈴木 修 一 靜岡中	靜岡	
久保田 夏樹 諏訪中	東 京 鈴木 修 一 靜岡中	靜岡	
熊谷 良臣 宇治山田中	東 京 鈴木 修 一 靜岡中	靜岡	

豫科 第二學年乙組

鈴關 宥 盛 松山中	埼玉 永島 福太郎 佐野中	栃木 廣永 達夫 鶴山中	山口
高橋 政清 興風中	山口 中園 茂 三浦中	藤下 義 趣 柏崎中	新潟
田代 襄 双葉中	福島 永塚 菊男 商工實習	藤原 信 夫 畝傍中	奈良
立中 一男 七尾中	石川 中野 匡夫 目白中	佐賀 船越 安夫 濱松二中	靜岡
棚橋 茂男 岐阜中	東京 長野 匡一 攻玉社中	埼玉 星野 喬 大社中	鳥根
田邊 清雄 京北中	岐阜 西崎 恒太郎 關西中	岡山 堀 込 修 平 商工實習	神奈川
田岡 健一 錦城中	靜岡 二宮 正篤 神通中	富山 牧 野 章 一 東海中	愛知
力石 恒五郎 柏崎中	新潟 芳賀 次郎 甲南中	東京 牧 野 一 熊谷中	埼玉
辻村 豊夫 聖峯中	京都 長谷川 眞一 府立五中	東京 牧 野 次郎 大連二中	廣島
筒川 敏夫 彦根中	滋賀 波多野 教介 柳井中	新潟 政 木 進 東海中	愛知
恒川 武 明倫中	愛知 服部 了 一 金澤二中	山口 梶 木 正 武生中	東京
時野 義修 東亞同文	愛知 服部 了 一 金澤二中	岐阜 松田 米 夫 岸和田中	東京
戸塚 哲郎 掛川中	林 喬 樹 岐阜中	石川 前原 時 雄 三池中	福岡
外村 源次郎 京北中	林 喬 樹 岐阜中	宮城 宮内 春 次 早稻田中	東京
長倉 三郎 沼津中	原 屋 信 親 麻布中	宮城 宮内 春 次 早稻田中	東京
中澤 象一 京華中	平田 正 次 豊橋中	村田 榮 三 福岡中	岩手
中島 逸美 府立七中	豫科 第二學年丙組	森島 貞次郎 築上中	福岡
長島 四二郎 専修商	平井 孝 一 第二神戶中	森島 貞次郎 築上中	福岡
		山川 平三郎 麻生中	三重

山田士之夫	宗像中	福岡	青山重之	橫濱一中	神奈川	江川源彌	東京
山本 眞	巢鴨中	東京	安津素彦	開成中	東京	江口益藏	東京
山本 五條中	奈良	東京	石川太郎	豊橋中	愛知	大田正朝	滋賀
吉川正男	明治學院中	東京	石田峰樹	八尾中	大阪	大田賢二	滋賀
吉川松孫	大社中	東京	市川好雄	見付中	靜岡	大野隆一	滋賀
吉田 眞	三淵中	福岡	市川好雄	高崎中	靜岡	大野隆一	滋賀
吉原友久	金澤三中	富山	出田 甫	岡崎中	愛知	大守鱗兒	滋賀
吉松常茂	川内中	富山	伊藤三男	府立一中	東京	高塚健司	滋賀
吉井敬次郎	第一神戶中	兵庫	稻垣演司	厚木中	神奈川	河野從道	滋賀
藤本昌文	青山學院中	愛媛	稻崎稔夫	掛川中	靜岡	垣本信雄	滋賀
和田利一郎	掛川中	靜岡	岩堀喜久男	橫濱一中	神奈川	柏木稔男	滋賀
渡邊昶男	一關中	岩手	岩尾 來	杵築中	大分	片山爲丸	滋賀
岡崎政雄	熊本中	熊本	飯島與志雄	安房中	千葉	角澤仁藏	滋賀
小川 純	世羅中	廣島	今井福次郎	山梨師範	山梨	神村 誠	滋賀
小川平三	田邊中	和歌山	今井正義	神戶一中	神奈川	木村 正人	滋賀
豫科 第一學年甲組			牛丸敏彌	神通中	富山	桑島 正	滋賀
阿部二郎	福島中	福島	内田秀雄	湘南中	神奈川	郡司 秀	滋賀
有賀 茂	日川中	山梨	浦井忠雄	上野中	三重	小坂 力	滋賀

古村 廉造	秋田中	秋田	關野利夫	縣立農業	神奈川	富永正美	世田谷中	長崎
近藤 銀男	京華中	東京	高田米吉	京華中	和歌山	戸村 眞三	國士館中	栃木
齋藤 孝司	上田中	長野	高野善一郎	野澤中	東京	中澤清二	豊橋中	愛知
齋藤 達夫	船壁中	埼玉	高橋 清	松山中	愛媛	中澤清三	橫濱三中	山梨
齋藤 千鶴夫	明治學院中	新潟	高橋正耶	安積中	福島	豫科 第一學年乙組		
磯崎公業	本郷中	東京	竹内 宏	京華中	東京	中島 哲夫	太田中	富山
坂口庄司	早稻田實業	東京	竹下 龜太郎	靜岡中	靜岡	中島 哲夫	太田中	富山
坂田 意勝	函館中	北海道	武部 和雄	京都一中	京都	南木 淑郎	住吉中	大阪
坂本 勇	新莊中	山形	谷川 龍男	指宿中	東京	南木 淑郎	住吉中	大阪
酒見 靖久	中學傳習館	福岡	谷川 龍男	指宿中	東京	南木 淑郎	住吉中	大阪
佐藤 俊夫	安積中	福岡	谷川 龍男	指宿中	東京	南木 淑郎	住吉中	大阪
佐藤 眞幸	鶴岡中	山形	玉木平三郎	新潟中	東京	西村 豊健	青森中	岩手
篠原 竹雄	池田中	德島	長木 連桓	京北中	石川	西村 豊健	青森中	岩手
四宮 彬	府立六中	德島	津田 本來	大連二中	廣島	西村 豊健	青森中	岩手
杉山 貞敏	府立一中	新潟	榎谷 松治	岸和田中	大阪	西村 豊健	青森中	岩手
角 正志	川内中	鹿兒島	土屋 四郎	宇治山田中	三重	橋爪 八興	興讓館中	廣島
末谷 仁一郎	金澤二中	石川	常松 戊三	大社中	鳥根	橋爪 八興	興讓館中	廣島

吉成安親	八槻淳良	山邊貞一郎	宮田榮男	町田尙夫	前田勝也	松本瑞家	本間三樹男	星野實	福島信義	平岡熊太郎	原口榮	島山英俊	萩原俊夫	辻野廣次	長曾我部勝	高橋久男	高橋清次	高辻龜之進
宇佐中	石川中	弘前中	水戸中	豊國中	日本中	安積中	佐渡中	大垣中	順天中	北野中	松山中	武生中	高輪中	堀中	岡山中	中津中	府立工務	豊津中
大分	福岡	青森	茨城	長崎	東京	福岡	新潟	岐阜	東京	大阪	埼玉	福岡	東京	大阪	愛媛	大分	東京	福岡
阿比留正延	神道部 第二學年	嘉添ハスタウハ	波德登戸静修	廣信同	善忠同	廣信同	長人同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同	眞民同
長崎	長崎	高知	長野	兵庫	宮城	愛知	福岡	高知	新潟	東京	長崎	北海道	石川	佐賀	鹿兒島	長崎	長崎	長崎
大樂八郎	關野久雄	須田太郎	澁谷武彦	澤田武弘	小島忠雄	上條千浪	金子安平	大森雅虎	大垣千秋	上山茂	苑田俊彦	牛尾三千夫	伊原茂樹	石野長次郎	磯部重一	石川辰雄	生田清	生田清
柳井中	大垣中	石川中	廣島中	天理中	金澤中	松本中	沼田中	關西中	東山中	防府中	山陽中	山陽中	桑名中	靜岡中	錦城中	宗像中	奉天中	奉天中
大分	岐阜	山形	福島	奈良	石川	長野	群馬	兵庫	山口	奈良	鳥根	三重	靜岡	埼玉	福岡	秋田	秋田	秋田

一五五

渡津部	米津千之	吉村六郎	吉田尙秋	吉田唯長	山代暉三	八代暉三	百田敏雄	村田治夫	宮地幸一	三谷榮一	滿田静夫	丸尾芳男	丸山嘉信	丸茂武重	前川八郎	松本辰雄	深澤義治	春田茂
大連一中	府立一中	靜岡中	府立六中	長崎中	粉河中	白河中	福岡中	市立二中	岡崎中	正則中	大正中	日本中	神戸一中	成城中	神港中	松山中	麻布中	府立七中
福岡	東京	靜岡	東京	長崎	和歌山	福岡	福岡	東京	愛知	東京	大阪	東京	徳島	長野	兵庫	埼玉	東京	東京
上村爲典	猪山正助	阿蘇保夫	青木久次郎	青木常雄	伊藤進	伊藤進	伊藤進	臨時專攻科	小佐功	尾崎慎治	岡村忠太郎	小川省三	小方衛	岡田正一	岡田一男	井上正	井上俊	渡邊升
兵庫	福岡	熊本	大阪	福岡	長野	長野	長野	長野	鳥根	東京	栃木	京都	福岡	香川	徳島	埼玉	愛知	岡山
高倉清彰	諏訪頼宜	鈴木幸雄	神保信利	白岩直樹	白崎謙吾	柴田八十二	篠原貞次	九里道守	九里道守	桐島秀一	木下明	喜田川清	神林淳雄	勝山忠虎	小澤剛	大野義郎	大神正義	興滿豊彦
日田中	大町中	安積中	聖峰中	津山中	東北中	下關中	愛媛師範	魚津中	成城中	八幡中	小城中	勳精中	白河中	須坂中	福岡中	東京第七中	今津中	國東中
大分	長野	福岡	大阪	岡山	山形	山口	愛媛	富山	三重	福岡	佐賀	三重	山形	長野	福島	東京	滋賀	大分

一五四

高瀨	高津	高澤	高田	田中	田淵	千田	土肥	中廣	中村	中村	中尾	長尾	西田	馬場	林恒	林秀
貞	成	樹	雄	正	一	昇	仙太郎	實	勇	光	政	正	長	繁	男	利
九州學院	欽傍中	虎姫中	舞鶴中	橫濱一中	島中農	鎮西中	小野中	下野中	瀧川中	五條中	八尾中	中學岡山農	松坂商業	八女中	小野中	中津中
熊本	奈良	滋賀	京都	神奈川	兵庫	熊本	兵庫	栃木	福岡	奈良	大阪	岡山	三重	福岡	兵庫	大分
平田	舟橋	堀部	水野	宮川	皆木	三好	森田	森田	山田	山田	吉田	和田	和田	井谷	小野	小野
秀	文	三	康	正	恒	弘	好	好	初	種	胤	令	美	彦	一	彦
大成中	欽傍中	武義中	千葉中	高岡中	四條暖中	大川中	吳市立中	大社中	立川內中	富山中	安達中	下關中	下妻中	磯城農	諏訪中	宗像中
東京	奈良	岐阜	千葉	富山	岡山	德島	廣島	鳥根	鹿兒島	富山	福島	山口	山形	茨城	奈良	長野
小山	近藤	櫻井	長島	水野	栗生	天野	有田	池田	石川	石井	磯野	伊奈	上田	內田	大崎	大原
常雄	正夫	三郎	久直	修一	次郎	勇	章	章	人	爾	哲夫	道彦	瑞	健	健	文
京都國學院	皇典講究所	神職養成所	京都國學院	石川	新築上中	京華中	京華中	京華中	桑名中	逗子開成中	三養基中	海星中	私立三田中	中學濟々	小牧中	三條中
福岡	岡山	京都	栃木	石川	愛知	福岡	東京	東京	三重	神奈川	佐賀	長崎	東京	千葉	青森	山形

神道部 第一學年

金子	河原	鎌田	北澤	木戸	清田	日下	久野	權文	木幡	最所	篠崎	白井	新井	杉原	杉村	鈴木	鈴木	高木
彌四郎	進	齋	隆	毅	正	孟	朝	親	千	九州男	凌	剛太郎	紫朗	道治	信行	敦通	泰太郎	
沼田中	佐世保商	日本中	飯田商	小牧中	八女中	羽昨中	刈谷中	福岡中	旭川中	三養基中	佐野中	酒田中	濱松一中	誠之館中	鴻城中	榛原中	安房中	
群馬	東京	東京	長野	石川	福岡	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	石川	
高田	土屋	中島	長瀬	長瀬	中島	橋本	林	深澤	北澤	北澤	北澤	北澤	北澤	北澤	北澤	北澤	北澤	
壽	一	忠	武	安	美	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	幸	
萩中	立教中	熊谷中	堺中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	宮崎中	
山口	愛知	埼玉	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	
宮本	目	毛利	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	盛	
橋	修	秀	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	
士	長	工	成	成	成	成	成	成	成	成	成	成	成	成	成	成	成	
酒田中	長生中	工業學校	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	松山中	
山形	千葉	青森	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	愛媛	

(別)長田 正雄 京都國學院宮城

高等師範部第三學年甲組

朝山一雄	朝日	荻原猛夫	天野武夫	荒牧竹吉	阿井理富	青木猛夫	安藤善秋	石原堅雄	石部一臣	伊藤祐代	岩永重義	岩野義三	飯塚壯次	入江壯次	内田英雄
德島中	龍谷中	日川中	倉吉中	宗像中	富岡中	高田中	長井中	中學濟々堂	身延中	飯田中	大村中	七野中	船壁中	下妻中	長崎中
德島	佐賀	山梨	鳥取	福岡	新潟	新潟	山形	熊本	山梨	長野	長崎	三浦	埼玉	茨城	長崎
植田	江頭	奥田	織田	大島	大島	開沼	風間	梶村	金子	金子	川上	河西	河野	神村	神田
夫	忠	信	慶	一	雄	明	吉	止	一	一	郎	郎	材	一	清
富岡中	大村中	高岡中	富山中	富山中	高崎中	山形中	新潟中	中學明善堂	見付中	三條中	上田中	高梁中	大成中	大城中	東京主計
福岡	長崎	富山	富山	神奈川	群馬	山形	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟
菊池	喜多	行徳	楠田	國吉	桑原	倉部	栗本	菅野	小島	小島	後藤	後藤	後藤	小林	小林
忠	代	貞	田	國	原	部	主	野	谷	谷	藤	藤	藤	林	林
安積中	築上中	浮羽中	五條中	支那青島	日本	鹿本中	飯田中	相馬中	郡山中	富田中	福馬中	福馬中	福馬中	上田中	青島學院中
福岡	福岡	福岡	奈良	鹿兒島	鹿兒島	熊本	長野	大分	福岡	奈良	大阪	新潟	東京	長野	愛知

高等師範部第三學年乙組

櫻木幹雄	佐藤剛	佐藤富士人	柴田節郎	芝田文男	齋藤金作	島田順四郎	杉山茂夫	鈴木實	鈴木好	須田厚	關口貞雄	瀬戸進	反野彌夫	高野彌夫	高橋覺	高橋茂雄	高屋二郎	武田憲三
松阪商	野城中	大分中	天王寺中	小濱中	角田中	館林中	小田原中	安房中	山形師	沼田中	浦和中	唐津中	横須賀中	身延中	安達中	青英商	德島中	村上中
三重	新潟	大分	静岡	福井	宮城	群馬	神奈川	千葉	山形	群馬	埼玉	佐賀	神奈川	山梨	福島	愛知	新潟	新潟
武田	立石	田中	田中	鈴木	(選) 鈴木	高島	高島	田中心	田中心	谷田	田部	玉木	玉手	玉手	民亮	藤波	寺田	
新潟中	新潟中	廣島	岡山	神奈川	北京	石川	石川	新沼	新沼	鳥根	群馬	群馬	宮城	宮城	新潟	新潟	新潟	
寺井	土肥	富岡	長岡	中田	中田	永井	永井	西村	野尻	野尻	萩原	長谷川	鳥山	服部	東正	藤永	藤田	
弘	利	金次郎	精治	徹	和	治	治	夫	彦	彦	平	眞澄	榮吉	忠志	雄	晋	正	
八戸中	植民貿易	宇治山田中	藤原中	德島中	津島中	掛川中	掛川中	豊國中	豊山中	古川中	本庄中	大社中	東北中	岡山中	鹿本中	鹿本中	植民貿易	
青森	熊本	三重	静岡	愛知	静岡	静岡	静岡	福岡	東京	東京	埼玉	埼玉	岩手	岡山	熊本	熊本	茨城	

荒木貞三 鳳中 大坂 坂手 主津山中 岡山 塚野 動今治中 廣島
石垣英完 沖繩師 沖玉 坂本 靜 雙葉中 福島 恒遠 敏夫 築上中 福岡
石垣渡 光 返子開成中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
石垣 渡 光 返子開成中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
大熊 勇 二 柏壁中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
大觀 信 良 福知山中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
大井 深 野澤中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
大原 太 郎 加古川中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
金子 政 美 春橋中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
川崎 弘 福山師 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
河村 正太郎 八戸中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
龜之岡 壯 藏 掛宿中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
木村 俊 夫 誠之館中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
後藤 四 生 小牧中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
後藤 明 一 澁川中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
五藤 善 二 郎 福島中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
齋藤 善 二 郎 福島中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡
齋藤 善 二 郎 福島中 崎 佐久間 次 唐津中 佐賀 富田 高俊 相馬中 福岡

藤卷 文 藏 野澤中 長野 守屋 正 雄 府立第二中 東京
古山 武 夫 長生中 千葉 矢崎 良 平 青山學院中 東京
星崎 英 雄 小田原中 神奈川 安田 節 義 日川中 山梨
星崎 利 龜 相馬中 福島 矢野 節 義 日川中 山梨
增田 喜 久 雄 富山中 富山 山口 定 松 鹿島中 長野
松田 市 藏 鳥原中 長崎 山口 定 松 鹿島中 長野
松永 稔 名古屋中 愛知 山口 定 松 鹿島中 長野
松原 靜 名古屋中 愛知 山口 定 松 鹿島中 長野
松井 照 好 上田中 長野 山下 知 躬 札幌第一中 東京
松尾 四 郎 鹿島中 佐賀 山下 知 躬 札幌第一中 東京
直嶋 宗 次 第二神戶中 兵庫 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
真鍋 宗 次 第二神戶中 兵庫 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
三田 禎 一郎 茨城師 茨城 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
宮崎 元 辰 中學修猷館 福岡 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
宮內 榮 一 福島中 福島 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
森澤 吉 雄 不動岡中 埼玉 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
森重 雄 大村中 長崎 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
森甚 一郎 德島中 廣島 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪
森田 政 夫 山陽中 廣島 湯淺 久 幸 泉尾工 大阪

高等師範部第學二年第一部

星野五郎	古川喜久雄	藤井保之	藤木信	福井保	廣田篤	平野稔	東野六	濱崎義雄	野邊行十郎	野口好古	二瓶直一	西林敏武	長尾尙正	中村忠尾	中筋貞美	中島猛	中川正之祐	中川榮一
札幌師	時習中	府中中	大谷中	福知山中	德島中	大野中	大多喜中	佐伯中	日本中	名教中	會津中	千葉中	京都一中	福島中	和歌山中	岩手中	和歌山中	京華中
北海道	熊本	廣島	京都	京都	徳島	福井	千葉	大分	宮崎	東京	福島	東京	香川	福島	和歌山	熊本	奈良	東京
宮崎	大塚	小澤	萩原	小川	岡部	井上	渡邊	吉田	楠木	山口	山内	三谷	三正	三敬	三木	三上	前田	松林
長野	佐賀	茨城	群馬	埼玉	東京	香川	宮崎	福岡	岡山	新潟	山形	東京	石川	群馬	山口	大阪	和歌山	長野
寛	大津	大島	大内	内山	今江	飯田	稻毛	糸原	泉井	石井	池田	池田	安藤	有田	安部	赤間	赤間	泉
不二雄	府立六中	鎌倉中	加古川中	横濱二中	生野中	關東中	横濱三中	松江中	小松中	五條中	丸龜中	都城中	明治學院	興風中	旭川中	嘉穂中	嘉穂中	嘉穂中
神奈川	熊本	静岡	兵庫	静岡	大坂	千葉	神奈川	島根	石川	奈良	香川	宮崎	千葉	山口	北海道	福岡	福岡	東京

小野坂忍	小野章	尾崎正章	井出邦夫	若山宗詮	和田正光	和田信夫	和田多慶治	吉村益郎	吉野清	吉田清	山本涉	山本仁	山口博	森島忠雄	梅木茂美	三吉登	松雪信三
高松中	吉備商	上市農	野澤中	花園中	城東中	鳳中	成器商	宇佐中	妻中	長井中	築上中	山形師	柏壁中	旅順一中	山形師	横須賀中	中學明善
香川	岡山	富山	長野	岐阜	高知	大阪	大阪	大分	宮崎	山形	福島	山形	埼玉	和歌山	山形	神奈川	佐賀
後藤健一	小島義一	兒島義一	倉田真浩	金子寬秀	大塚隆吉	奥山三郎	沖口三郎	上野太郎	青木公平	有末巖	天野清	阿部七郎	阿部桂太郎	秋山國之助	秋山親之	高等師範部第二學年第二部	高等師範部第二學年第二部
山形	宮崎	兵庫	千葉	東京	埼玉	三重	山形	愛媛	山口	長野	兵庫	鳥取	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟
戸谷	竹内	竹内	高橋	高木	高木	代吉	末吉	志村	島田	重田	佐藤	佐藤	佐藤	坂倉	齋藤	小野	小林
津高	善三郎	長雄	明義	一男	政則	吉秀	秀雄	村茂	田健	滿靜	藤敏	藤幸	藤治	芳夫	寬夫	周太郎	克己
札幌一中	横手中	弘前中	池田中	置賜農	七尾中	熊谷中	鳥原中	小牧中	豊津中	都城中	厚木中	名教中	神戶中	柏壁中	靜岡中	福島中	龍野中
北海道	秋田	青森	徳島	山形	石川	石川	埼玉	長崎	愛知	福岡	宮崎	神奈川	新潟	三重	埼玉	新潟	兵庫

角谷美平	粉河中	和歌山	豊田日出雄	大村中	福岡	福岡	則雄	錦城中	山梨
未富近徳	大口中	鹿兒島	永里秀夫	鹿兒島中	鹿兒島	福岡	井周	靜岡中	静岡
清田喜久	厚木中	神奈川	長島太郎	麻布中	愛知	福岡	松甚之助	福知山中	京都
曾我俊一郎	府立七中	新潟	中島正太郎	太田公立中	佐賀	福岡	村上勝一郎	函館師	北海道
高木昇三	水戸中	茨城	中村一郎	鶴岡中	山形	八木正明	第二岡山中	高知	
高崎正二	鹿屋中	鹿兒島	中村勇	衛宇治山田中	三重	山本常文	志希志中	山口	
高橋正二	福島中	福島	中山茂	千葉中	千葉	山本常文	志希志中	山口	
高取憲吾	八女中	佐賀	永井健吉	北海中	北海道	横井喜一郎	會津中	福島	
武元肇	伊集院中	鹿兒島	西田久	天理中	奈良	吉田源男	太田公立中	福島	
田久保聰	唐津中	佐賀	西野優	傍款中	奈良	吉田源男	三條中	新潟	
田代開藏	小田原中	神奈川	西村昌光	崇徳中	廣島	米田健一	富田林中	大阪	
田中儀三郎	中學明善校	福岡	野上重三郎	洲本中	兵庫	脇田善夫	指宿中	鹿兒島	
田中三秋	志布志中	鹿兒島	橋本定	中學善明校	福岡	渡瀬傳助	松江中	島根	
谷澤能剛	高松商	香川	長谷川清	豊橋中	静岡	井上狷介	東濃中	岐阜	
津田信雄	廣島師	廣島	長谷川芳男	興風中	山口	岡田公平	静岡中	静岡	
土屋丈夫	沼津商	静岡	林田希平	嘉穂中	福岡	小澤卓郎	静岡中	静岡	
寺澤忠昌	愛知一中	新潟	原武夫	中學明善校	熊本	小野田政宏	相馬中	福岡	
富樫好雄	鶴岡中	山形	日比野正久	青山學院	東京				
時枝明	麻布中	東京	平田盛行	朝倉中	福岡				

國學院大學附屬圖書館圖書閱覽規則

- 第一條 本館ノ開閉時間及休日ハ左ノ如シ
- 一、平日ハ午前八時ヨリ午後七時迄
 - 一、日曜日ハ午前九時ヨリ午後四時迄
 - 一、春季休業期間ハ午前九時ヨリ午後四時迄
 - 一、夏季休業期間ハ午前八時ヨリ正午迄
 - 一、冬季休業期間ハ午前九時ヨリ午後四時迄
 - 一、休日ハ祝祭日、本所本大學創立記念日、卒業式當日
- 但シ開閉時間ハ臨時變更スルコトアルヘシ
- 第二條 圖書ヲ閱覽セントスルモノハ借書票ニ書名、冊數、記號、年月日、姓名ヲ詳記シ學生證ヲ添ヘテ借受クノ手續ヲナスヘシ
- 但シ圖書ハ閱覽室外ヘ帶出スルコトヲ許サス

第三條 左ニ掲クル者ハ特ニ許可ヲ經タル上、圖書ノ閱覽ヲナスコトヲ得

一、皇典講究所卒業生

二、本大學卒業生

三、神職養成部卒業生

四、本所本學ニ特別ノ關係アル者

五、諸官廳學校等ヨリ特ニ照會アル者

第四條 閱覽室ニアリテハ靜肅ヲ旨トシ音讀、談笑、喫煙等ヲナスヘカラス其ノ他スヘテ閱覽者ノ障礙トナルヘキ舉動ヲ禁ス

第五條 教職員ハ必要ノ場合其ノ旨ヲ館員ニ通シタル上、書庫内ノ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第六條 研究室ニ要スル圖書ハ其ノ主任ノ名義ヲ以テ之ヲ借受クルモノトス

第七條 教授講師ハ參考用トシテ一員三拾冊(和洋裝ヲ論セス)ヲ限リ其ノ他ノ職員ハ一員拾冊ヲ限リテ借受クルコトヲ得、其ノ借受期間ハ何レモ一ヶ月以内トス

第八條 逐次刊行ノ雜誌新聞紙類ハ到着セル日ヨリ三十日ヲ經過セサレハ借受帶出スルコトヲ得ス

第九條 貴重圖書、辭書、目錄類ハ所長若クハ學長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ館外ヘ帶出スルコト

ヲ許サス

第十條 教職員ニシテ退職ノ場合ハ借受ケタル圖書ヲ直ニ返納スルモノトス

第十一條 本館ニ於テ圖書點檢ノ必要アル時ハ借受人ニ對シ臨時圖書ノ返納ヲ求ムルコトアルヘシ

第十二條 借覽ノ圖書ヲ紛失シ或ハ汚損シタル時ハ必ス之ヲ辨償セシム 時宜ニヨリテハ圖書ニ代フルニ其時價ヲ以テスルコトアルヘシ

國學院大學研究室內規

第一條 國學院大學ニ左ノ研究室ヲ設ク

一、道義研究室

二、國史研究室

三、國文研究室

第二條 各研究室ヲ第一分科第二分科ノ二科ニ分ツ

第三條 各研究室ニ左ノ職員ヲ置ク

主任 各分科一名
助手 各一名

第四條 主任ハ學長ノ指揮ヲ承ケ研究室ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條 助手ハ主任ノ指揮ヲ承ケ左記ノ事項其ノ他研究室ニ關スル一切ノ實務ニ従事ス

一、室内ノ整理及監督

二、圖書ノ購入請求及管理

三、研究室日誌ノ記載

四、入室者名簿ノ管理

五、圖書目錄備附臺帳ノ保管

助手ノ勤務時間ハ研究室開閉ノ時間ニ從フ

第六條 各研究室ニ左ノ臺帳ヲ備フ

イ、備附圖書目錄

ロ、備品臺帳

ハ、圖書購入請求簿

ニ、研究室日誌

ホ、入室者名簿

第七條 研究室ハ毎日(日曜祭日ヲ除ク)午前八時半ニ開キ午後四時半ニ閉ツ

但シ臨時開閉シ又ハ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第八條 研究室ニ入室スルコトヲ得ルモノ左ノ如シ

一、研究科學生

二、學部學生

三、附屬高等師範部同神道部生徒ニシテ研究室主任ノ指揮ヲ受ケントスル者

四、豫科生徒ニシテ特ニ研究室主任ノ許可ヲ得タル者

五、前四項ノ外本大學關係者ニシテ研究室主任ノ承諾ヲ得タル者

第九條 研究室ニ入室スル學生々徒ハ左ノ諸項ヲ嚴守スヘシ

一、入室ノ際ハ必ス其所屬ノ部(科)氏名ヲ備附ノ入室名簿ニ記入スヘシ

二、室内ニ在リテハ靜肅ヲ旨トスヘシ

三、圖書ノ閱覽ハ所定ノ場所ニ於テ爲スヘシ

- 四、圖書ノ取扱ハ鄭重ヲ念トシ書入汚損スルコトヲ許サス
- 五、室内ニ於テハ總ヘテ主任及助手ノ指示ニ從フヘシ
- 第十條 研究室備附ノ圖書ハ一切帶出スルコトヲ許サス
- 第十一條 研究室ハ當該主任ノ許可ナクシテ講演等ニ使用スル事ヲ得ス

國學院大學學友會々則

(昭和五年五月現在)

- 第一條 本會ハ國學院大學々友會ト稱シ本大學々生生徒(學部大學豫科高等師範部及神道部)ヲ以テ組織ス
- 第二條 本會ニ左ノ十部ヲ置ク
 - 總務部 文藝部 辯論部 劍道部 柔道部 野球部 庭球部 弓道部 競技部
 - 音樂部
- 第三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 理事長 部長 理事 委員

- 第四條 會長ニハ學長ヲ推戴ス
- 第五條 理事長ハ學生監ニ委託ス
理事長ハ會長ノ命ニ依リテ一切ノ事務ヲ總理ス
- 第六條 部長ハ各部ニ於テ本學教授講師中ヨリ之ヲ推戴シ會長ノ認可ヲ經ルモノトス
但シ二部以上ノ兼任ヲ許サス
- 第七條 理事ハ各部二名トシ學年末ニ於テ推薦又ハ互選ニヨリ理事長ノ認可ヲ經テ之ヲ定メ其ノ部ニ於ケル一切ノ事務ヲ處理スルモノトス
但シ總務部ノミハ理事四名トシ學部、大學豫科、高等師範部及神道部、最上級生中ヨリ各一名ヲ學年末ニ於テ推薦又ハ互選ニ依リテ之ヲ定メ理事長ヲ輔ケテ事務ヲ處理スルモノトス
- 第八條 委員ハ各部五名トシ推薦又ハ互選ニヨリ理事長ノ認可ヲ經テ之ヲ定メ理事ヲ助ケテ其部ノ事務ヲ處理ス
- 第九條 理事及委員ノ任期ハ學年度始ヨリ一箇年トス 但シ事務引渡シノ責任アリ
- 第十條 理事ハ二部以上ノ兼任ヲ許サス 但シ委員ハ此限ニアラス
- 第十一條 豫算會ハ毎年五月上旬會長ノ名ニ依テ理事長之ヲ招集ス

- 第十二條 豫算ハ總務部理事及各級委員ニ依テ審査決定ス 但シ代理ヲ許サス
- 第十三條 總務部ヲ除ク各部理事ハ豫算會ニ參列シ單ニ豫算ノ説明ヲナスモノトス 但シ理事不參ノ場合ハ理事長ノ許可ヲ得テ委員之ニ代ルコトヲ得
- 第十四條 各部ハ豫メ本會總收入ノ七分ノ一以內ニ於テ適當ノ豫算案ヲ作製シ總理部理事ニ提出シ 總務部理事ハ各部豫算案ヲ總括シテ理事長ニ提出ス
如何ナル事情アリトモ一部ニシテ本會總收入ノ七分ノ一以上ノ豫算額ヲ獲得スルヲ得ス 但シ總務部豫算ハコノ限リニアラス
- 第十五條 會議ノ場合ハ全員ノ五分ノ一以上ノ出席者アルヲ要ス
- 第十六條 決議ハ多數決ノ法ニヨル 但シ贊否相半スル時ハ理事長ノ裁決ニヨルモノトス
- 第十七條 各部ハ其ノ年度ヲ左ノ二期ニ分チ各期末(但シ後期ハ二月末日)ニ會計報告書ヲ總務部理事ニ提出シ總務部理事ハ之ヲ總括シテ理事長ニ提出ス
前期自四月一日至十月三十一日 後期自十一月一日至三月三十一日
- 第十八條 理事長ハ每期審査會ヲ招集シ當該期間ニ於ケル各部ノ會計審査ヲナス 但シ必要ト認めタル場合ハ隨時之ヲ行フ

第十九條 會計審査會ハ左ノ組織ニ依ル

審査會長ハ理事長之ニ當ル

審査員ハ學部大學豫科高等師範部及神道部各二名ヲ各級委員ヨリ互選シ、總務部理事之ニ加ハル

第二十條 審査會ニ於テ不當ト認めタル支出ハ當該理事ソノ責任ヲ負フモノトス

第二十一條 事後承諾ノ形式ニ於テ豫メ明年度ノ收入中ヨリ前借支出スルコトヲ得ス

第二十二條 新ニ部ヲ創設セントスル時ハ經常費ノ財源ヲ有シ役員會議ヲ開キ滿場一致ノ可決ヲ經ル

コトヲ要ス 但シ其經常費ハ臨時ノ寄附行爲(學生院友教授等ノ學校關係者ニ對シテ)ヲ要求スヘカラス

第二十三條 會員ハ年額金拾圓ヲ會費トシテ納メ入學ノ當時入會金トシテ金貳圓ヲ納ムヘキモノトス

但シ會費ハ第一學期及ヒ第二學期ノ二回ニ分チテ納ムルコトヲ得

第二十四條 本會則ヲ改正増補セントスル時ハ各部理事ノ出席ヲ求メテ之ヲ行ヒ豫算會ノ決議法ヲ準用スルモノトス 但シ理事ハ採決ニ加ハラズ

教員無試驗檢定ニ關スル法規

(イ) 高等學校教員規程ニ依ル無試験檢定ヲ受クルコト
ヲ得ル者ノ指定 (拔萃)

大正八年文部省令第十號高等學校教員規程第十條ニ依リ左記ノ者ハ頭書ノ學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

修 身 國學院大學文學部道義學科卒業者ニシテ哲學(二)、東洋哲學史(一)、教育學

(一)、教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ

國學院大學文學部道義學科卒業者ニシテ倫理學ヲ專攻シ哲學(二)、東洋哲學史

(一)、教育學(一)、教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ

國學院大學文學部國文學科卒業者ニシテ東洋哲學(一)、漢文學(一)、教育學

(一)、教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ
日本史及東洋史 國學院大學文學部國史學科卒業者ニシテ東洋史學(一)、教育學(一)、教育史
(一)ヲ選擇履修シタルモノ

哲學概說 國學院大學文學部道義學科卒業者ニシテ哲學ヲ專攻シ論理學(一) 倫理學(一)
教育學(一) 教育史(一)ヲ選擇履修シタルモノ

(ロ) 教員無試験檢定ニ關スル指定學校名及學科目 (拔萃)

國學院大學 (大學令ニ依ルモノニ限ル)

帝國憲法及皇室典範一單位、國民道德二單位、神道二單位、倫理學一單位、東洋倫理學一單位、西洋倫理學史一單位、國史一單位、社會學一單位、宗教學一單位、日本宗教史一單位、道義ニ關スル演習四單位ヲ修メ且教育學概論一單位、教育史概說一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

元道義學科 修 身
道義學科 修 身(甲)
ニ限ル

倫理科ヲ卒業シ教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタルモノニ限ル

修身(乙)

哲學科ヲ卒業シ倫理學一單位、教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

國史學科 歴史(甲)

帝國憲法及皇室典範一單位、國民道德一單位、國史四單位、日本法制史一單位、東洋史二單位、西洋史二單位、史學研究法一單位、國史ニ關スル演習四單位ヲ修メ且教育學概論一單位、教育史概説一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

歴史(乙)

帝國憲法皇室典範一單位、古事記一單位、日本書紀一單位、神道概論一單位、國史學四單位、日本法制史一單位、東洋史學二單位、西洋史學二單位、史學研究法一單位、古文書學一單位、國史學演習二單位ヲ修メ且教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

國文學科 國語、漢文(甲)

帝國憲法及皇室典範一單位、國民道德一單位、文學概論一單位、國文學史二單位、國語學一單位、言語學一單位、國史一單位、國文學ニ關スル演習五單位、漢文學ニ關スル講義又ハ演習三單位ヲ修メ且教育學概論一單位、教育史概説一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

國語、漢文(乙)

帝國憲法皇室典範一單位、古事記一單位、日本書紀一單位、神道概論一單位、文學概論一單位、國文學史二單位、國語學一單位、言語學一單位、國文學演習五單位、漢文學演習三單位ヲ修メ且教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

豫學部 英語

大學豫科ニ於テ英語ヲ以テ入學シ主トシテ英語ヲ修メ更ニ學部ニ於テ外國語學二單位(一單位ハ一學年每週四時間)以上ヲ選擇シ且教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル者ニ限ル

英語ヲ以テ入學シ主トシテ英語ヲ修メ其成績優等ナル者ニ限ル

(ハ) 公立私立學校卒業者ニ對シ無試験檢定ノ取扱ヲ許
可シタル學校(拔萃)

學校名	學部及學科名	無試験檢定 學科檢定目	許可年月日	備 者
元私立國學院	師範部 國語漢文 歷史地理科	日本歷史、國語	明治三十二年 七月二十七日	明治三十二年七月ノ入學者ヨリ取扱ヲ爲ス 明治三十三年十一月三十日 「日本歷史」ヲ「歷史」ニ「國語」ヲ「國語及漢文」ニ變更許可
	師範部 國語漢文 歷史地理科	國語及漢文、歷史	明治三十七年 四月二十二日	明治三十七年四月二十一日師範部ノ組織ヲ變更シテ同年九月ヨリ專門學校令ニ依ルノ件認可 明治三十九年六月十二日「私立國學院大學」ト改稱認可

元國學院大學		國學院大學附屬高等師範部	
大學部 國史科 國文科	師範部 國語漢文科 歷史地理科	高等師範科	高等師範部
國語及漢文 國語及漢文	國語、漢文 歷史	國語、漢文	修身、國語、漢文 國語、漢文、歷史
明治三十八年 十月十三日	明治四十年 九月二十六日	昭和四年 四月五日	昭和八年三月以後ノ卒業生ニ限ル
明治四十三年九月二十六日師範部「歷史地理科」ヲ「歷史科」ト改稱認可 大正元年八月廿三日師範部歷史科ヲ同年九月以後廢止認可 大正八年九月國學院大學ト改稱認可 大正九年五月十八日師範部國語漢文科ヲ高等師範科ト改稱認可 大正十二年一月廿六日高等師範科ヲ高等師範部ト改稱認可 門部令ニ依ル一月二十六日專門學校令ニ依ル三月二十六日大學部ヲ廢止シ同年三月三十一日國學院大學附屬高等師範部ト改稱認可	昭和三年十二月十八日附屬高等師範部ヲ第一部、第二部ニ分ツノ件認可	昭和八年三月以後ノ卒業生ニ限ル	昭和八年三月以後ノ卒業生ニ限ル

國學院大學 附屬神道部	本科 別科 第一種	科 種	歴 史	昭和五年 四月二十二日	昭和五年三月以後ノ卒業者ニ 限ル
----------------	-----------------	--------	--------	----------------	---------------------

稻荷神社獎學金規程

- 第一條 本獎學金ハ官幣大社稻荷神社獎學金ト稱シ神宮皇學館本科研究科及普通科竝ニ國學院大學學部高等師範部神道部及研究科ニ在學セル學生ニシテ卒業後永ク神祇ノ祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シ調査研究ヲ爲サントスルモノ竝ニ右卒業以外ノ卒業生ニシテ特ニ神祇道ニ關スル調査研究ヲ爲サントスル者ニ對シテ之ヲ給付ス
- 第二條 本規程第三條以下ニ神社ト稱スルハ官幣大社稻荷神社ヲ、兩費ト稱スルハ神宮皇學館及國學院大學ヲ指稱ス
- 第三條 本獎學金受給付者ハ兩費ニ於テ品行方正思想堅實ニシテ學力優秀身體強健ナル學生ニ就キ

- 兩費各別ニ銓衡シ神社ノ同意ヲ經テ之ヲ選定スルモノトス
- 第四條 本獎學金ハ一名ニ付一ヶ月金五拾圓以内トシ同一人ニ給付スル期間ハ三年以内トス
- 第五條 本獎學金受給付者ヲ選定シタル時ハ兩費ハ本人ニ對シ連帶責任アル保證人ヲ立テシムルコトヲ要ス
- 第六條 本獎學金ハ左記ノ如ク漸次増額シ當分金參千六百圓ヲ以テ限度トシ十七年度(昭和三年度)以降引續キ之ヲ兩費ニ寄贈スルモノトス
 - 大正十四年度 金一千二百圓也
 - 大正十五年度 金二千四百圓也
 - 大正十六年度(昭和二年度) 金三千六百圓也
- 第七條 前條ノ獎學金ハ之ヲ兩費ニ切半シ毎半年度ノ始ニ於テ半額宛ヲ交付ス
- 第八條 神社ノ都合ニ依リ將來獎學金ヲ減額又ハ休止シ、或ハ廢止スル場合アリトモ既ニ選定シタル受給付者ニ對シテハ卒業迄之ヲ給付ス
- 第九條 本獎學金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ毎年終了後兩費ヨリ直ニ神社ニ報告スルモノトス

第十條 卒業者ノ調査研究スヘキ題目ハ兩費ニ於テ豫メ神社ノ同意ヲ得テ決定シ其ノ成績ハ完了後本人ヨリ兩費ニ兩費ヨリ神社ニ報告スルモノトス

第十一條 兩費ハ本獎學金受給付者ヲ決定シタルトキハ成ルヘク其ノ受給付者ヲ、受給付者卒業シタルトキハ必ス其ノ卒業者ヲシテ神社ニ參拜セシムルモノトス

第十二條 受給付者ニシテ不都合ノ廉アリタルトキハ兩費ハ神社ノ同意ヲ經テ相當ノ處分ヲナシ既給ノ獎學金ヲ返還セシムルモノトス 但シ特別ノ事情アル者ハ兩費ニ於テ神社ノ同意ヲ經テ返還金ノ一部若クハ全部ヲ免除スル事ヲ得

第十三條 前條ノ返還金及預金利子又ハ剩餘金等ハ之ヲ次年度ニ繰越シ受給付者ノ旅費其ノ他必要ナル學費ニ支出スルコトヲ得

第十四條 本獎學金ニ關シ兩費ニ於テ給付規定其ノ他必要ナル内規等ヲ定メタルトキハ神社ニ報告スルモノトス

第十五條 兩費ニ於テ神社ニ對シ第三條第十條第十二條ノ同意ヲ需メス若クハ第九條第十條ノ報告ヲナサス又ハ第五條第十一條等ノ規定ヲ履行セサルトキハ神社ハ其費ニ對シ其費ノ新ニ給付セントスル神社獎學金ノ寄贈ヲ謝絶スル事アルヘシ

全國神職會教育補助金規程

第一條 本補助金ハ神宮皇學館本科研究科並ニ國學院大學各部、高等師範部、神道部及研究科ニ在學セル學生ニシテ卒業後永ク祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シ調査研究ヲ爲サントスル者ニ對シテ給付ス

第二條 本補助金受給付者ハ神宮皇學館長、國學院大學長ニ於テ、品行方正、學術優秀ナル學生ニツキテ銓衡シ本會ニ移牒スルモノトス

第三條 本補助金ハ一名ニ付一ヶ月金拾圓以内トス

第四條 本補助金ハ本會ノ都合ニヨリ減額又停止スルコトアルヘシ

第五條 受給付者ニシテ不都合ノ廉アリタル時ハ大學又ハ學館ハ本補助金ノ給付ヲ停止又ハ變更スルコトアルヘシ

第六條 本補助金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ每學年終了後大學及學館ヨリ本會ニ通知スルモノトス

昭和五年九月十七日印刷
昭和五年九月二十日發行

國學院大學

電話青山五七八五・五七八七
東京澁谷町

全國書局發行